中検フォーラム

第 19 号
2020 年 10 月

2020 年 10 月 17 日(土)に関西大学(千里山キャンパス)以文館 4 階セミナースペースにて「中検フォーラム」を開催しました。昨今の状況により，Zoom でも多くの先生方にご参加いただきました。

ポスト・コロナを見据えて

～新しい中国語教育・学習・試験のあり方を考える～

挨拶

理事長　内田　慶市(関西大学)

今年は世界中が未曾有のコロナ禍で大変な事態になっています。その終息はまだ先を見通せない状況が続いています。中検も 3 月の試験は中止せざるを得ず，6 月も約半分の会場では実施できませんでした。11 月は何とか多くの会場で実施できそうですが，まだまだ予断を許しません。

さて，こうした最悪の状態の中でも，今年度の中検フォーラムは皆様のご協力をもちまして何とか開催できました。今回はこの時期にまさにタイムリーな「ポスト・コロナを見据えて～新しい中国語教育・学習・試験のあり方を考える～」というテーマで 5 名の先生方のご発表をいただきました。また，この特集に先立ち，協会副理事長から「CEFR を考慮した新しい出題形式」についての報告も行われました。

会場での対面の報告と Zoom を使ってのオンラインというハイブリッドの形で行われましたが，これからの新しい会議の方法として世界中でルーティン化されるような流れを感じています。

フォーラム終了後，多くの方からご意見をいただきました。ほとんどが好意的な内容でやってよかったと思っています。皆様からいただいた貴重なご意見を今後の中検に生かして参りたいと思います。

次回もまたよろしくお願いいたします。

CEFR の基準を考慮した新しい出題形式

副理事長　張　勤(中京大学)

1. 新形式問題の検討背景

この度，中検では新形式の問題の導入をすることになった。

中検は日本語に立脚し，日本語を母語とする方を中心に，その中国語のレベルを高い精度で測るべく，絶えず点検・微調整を続けている。それと同時に日本社会も国際社会の一員としてグローバル化が進み，語学教育とそれに伴う検定試験も目まぐるしく変化し続けている。変化の特徴の一つとして，文法や語彙知識の習熟度を測る傍，コミュニケーションの能力の測定も重要視されるようになってきていると言えよう。そのため，来年度から実際される共通テストを含め，日本の多くの検定試験において CEFR の基準が参照されるようになっている。

このような状況の下，中検も念入りにコミュニケーション能力を測る試験としての側面から点検を行い，その結果，中検の現行の試験問題が中国語によるコミュニケーション能力を測る試験としても十分に機能していることを確認することができた。

ところが，コミュニケーションが話し手と聞き手の間に双方向に行われるものだとするならば，そこにことばの運用能力として発信能力と受信能力とが必要だと考えられるが，筆記を中心とする検定試験は発信能力を測る部分が相対的に弱い宿命を持つ。この弱い部分をカバーするべく設計したのはこの度導入することとなった新形式の問題である。言い換えれば，新形式の問題は，コミュニケーションにおける発信能力（あるややまとまった意味を表出できないか）を測ることを主旨とするものである。

2. 新形式問題の検討プロセスと結果分析

新形式問題への検討は 2018 年秋より始めた。それ以来，理事会内の検討チーム，出題委員会の問題検討会議，及びフォーラムにおいて度重なる議論が続いてきた。

問題そのものへの検討は，CEFR の基準を中検に照らし合わせて検証した上，試験問題を軸に，級別の語彙数，文法配置，更に「聞く（リスニング）」「話す（スピーキング）」「読む（リーディング）」「書く（ライティング）」の四技能及び「訳す」能力への配慮などについて，そのあり方を検証した。

検証は CEFR の「共通参照レベル：自己評価表」と中検試験問題(97 回～99 回)を対照する形で行われた。CEFR の「共通参照レベル：自己評価表」の項目と中検の試験問題の種類を次のような対応関係を設定してみた。

CEFR		中検
「理解すること」の「聞く」	＝	リスニング
「理解すること」の「読む」	＝	筆記
「話すこと」の「やりとり」	＝	リスニング
「話すこと」の「表現」	＝	二次試験
「書くこと」	＝	翻訳，筆記第 5 問

ご存知のように CEFR は基本的にできること，すなわち能力で分類されている。言い換えれば，中検のような文法項目やリスニング・読解等の形式による分類ではなく，コミュニケーションの内容による分類である。そこで，CEFR と中検とは完全な対応関係を見出すことができず，ほぼ該当するという形で見ていくということになる。

検討の結果は別表で示されているように現行の中検の試験問題が中国語によるコミュニケーションの能力を測る試験としても十分に機能していることを確認することができた。別表は CEFR の「共通参照レベル：自己評価表」に

中検の試験問題を上に示した方針で被らせたものであり，スカイ色の部分は中検がカバーしている範囲である。

ところが，ペーパー試験を中心に開発・運用されている中検は，話し手と聞き手の間で双方向に行われるコミュニケーションに対応しきれていない部分も見受けられる。別表ではその部分を黄色で示している。コミュニケーションに立脚すれば，ことばの運用能力は発信能力と受信能力との両側面を必要とされるが，それに対してペーパー試験を中心とする検定試験が宿命として発信能力を測る部分の弱さを持つと言えよう。この部分の強化を目指すのはこの度の新形式の問題の目的である。

なお，今回導入される新形式問題は，筆記の一部分とするもので，そうすることにより中検の強みである翻訳や実際に書くことをも強化することになる。

3　新形式の問題のイメージ（変更することがある）

新形式の問題は，２級以上の級に導入し，筆記５の一問として設定される。次は問題例を示していくが，変更や調整をする可能性もある。

1級　問題文　「仕事と休み」について，次の 5 つの単語をすべて使用して 100 字以上 120 字以内で文章を書きなさい。**时间，电话，羡慕，每天，充足**

解答例　**在街上每看到悠闲地坐在咖啡店外面太阳伞下喝着咖啡的人，总会有一种说不出来的羡慕。我要是也有那片刻的时间该多好啊！我每天有打不完的电话，准备不完的会议资料，看来很充足，但是心里却是空空的。我得好好思考一下什么是我需要的生活了。**（112 字）

準1級　問題文　「エコ生活」について，次の三つの単語をすべて使用して 80 字以上 100 字以内で文章を書きなさい。**时间，每天，车**

解答例　**我有一辆车，但是我每天都乘公交车去上班。我们常常能听到世界各地发生自然灾害的消息，地球的环境变得越来越恶劣了。虽然乘公交车上班会多费一些时间，但是我觉得这样做可以为保护地球做一些贡献。**（92 字）

2級　問題文　「映画を見る」について，次の二つの単語をすべて使用して 50 字以上 80 字以内で文章を書きなさい。**时间，每天**

解答例　**同学们每天都在说《你的名字》很有意思。大家都已经看了，我也很想看，不过我要打工，没有时间。明天晚上我不打工，可以去看电影了。**（62 字）

参考のために筆記 5 の問題設定一覧を載せておく。

	日文中訳			作文			全体配点
	問題数	原文長さ	配点	単語数	求める字数	配点	
1級	2	100−120	16	5	100−120	8	24
準1級	2	80−100	16	3	80−100	8	24
2級	4	30−50	16	2	30−50	6	22

4　新形式の問題の導入に伴う他の問題の調整

新形式問題の導入に伴って，筆記４と筆記５に対して若干調整を行った。

主な変更点は以下である。

1)筆記4

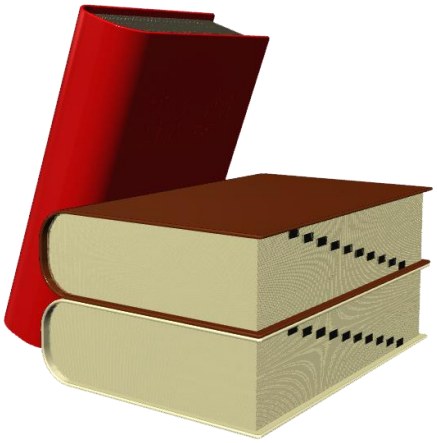
	問題形式	問題数	配点
1級	変更せず	(3題→)2題	(24点→)**20点**
準1級	変更せず	拼音:変更せず 中文日訳:(3題→)2題	拼音:(4点→)4点 中文日訳:(20点→)16点　計**20点**
2級	(読解問題→)拼音+中文日訳	拼音: 2題 中文日訳:2題	拼音:4点 中文日訳:14点　計18**点**

2)筆記5

	問題形式	問題数	配点
1級	日文中訳→日文中訳＋新形式問題	日文中訳:2題 新形式問題:1題	日文中訳:16点 新形式問題:8点　計**24点**
準1級	日文中訳→日文中訳＋新形式問題	日文中訳:2題 新形式問題:1題	拼音:16点 中文日訳:8点　計**24点**
2級	日文中訳→日文中訳＋新形式問題	日文中訳:(5題→)4題 新形式問題:1題	日文中訳:16点 新形式問題:6点　計**22点**

5　新形式問題の導入時期

現在最終調整に入っているが，確実な導入時期はまだ未定である。導入時期が確定すれば，協会のホームページやフォーラムの会報などにおいて周知する。



共通参照レベル：自己評価表

		理解すること		話すこと		書くこと（筆記・翻訳）
		聞くこと（リスニング）	読むこと（筆記）	やり取り（＊リスニング）	表現（＊二次試験）	
基礎段階の言語使用者	A1	はっきりとゆっくりと話してもらえれば，自分，家族，すぐ周りの具体的なものに関する聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。	例えば，掲示やポスター，カタログの中のよく知っている名前，単語，単純な文を理解できる。	相手がゆっくり話し，繰り返したり，言い換えたりしてくれて，また自分が言いたいことを表現するのに助け船を出してくれるなら，簡単なやり取りをすることができる。 直接必要なことやごく身近な話題についての簡単な質問なら，聞いたり答えたりできる。	どこに住んでいるか，また，知っている人たちについて，簡単な語句や文を使って表現できる。	新年の挨拶など短い簡単な葉書を書くことができる。 例えばホテルの宿帳に名前，国籍や住所といった個人のデータを書き込むことができる。
		準4級	準4級			
	A2	（ごく基本的な個人や家族の情報，買い物，近所，仕事などの）直接自分に関連した領域で最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。 短い，はっきりとした簡単なメッセージやアナウンスの要点を聞き取れる。	ごく短い簡単なテクストなら理解できる。 広告や内容紹介のパンフレット，メニュー，予定表のようなものの中から日常の単純な具体的に予測がつく情報を取り出せる。 簡単で短い個人的な手紙は理解できる。	単純な日常の仕事の中で，情報の直接のやり取りが必要ならば，身近な話題や活動について話し合いができる。 通常は会話を続けていくだけの理解力はないのだが，短い社交的なやり取りをすることはできる。	家族，周囲の人々，居住条件，学歴，職歴を簡単な言葉で一連の語句や文を使って説明できる。	直接必要のある領域での事柄なら簡単に短いメモやメッセージを書くことができる。 短い個人的な手紙なら書くことができる：例えば礼状など。
			4級	4級	4級	4級
自立した言語使用者	B1	仕事，学校，娯楽で普段出会うような身近な話題について，明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。話し方が比較的ゆっくり，はっきりとしているなら，時事問題や，個人的もしくは仕事上の話題についても，ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる。	非常によく使われる日常言語や，自分の仕事関連の言葉で書かれたテクストなら理解できる。 起こったこと，感情，希望が表現されている私信を理解できる。	当該言語圏の旅行中に最も起こりやすいたいていの状況に対処することができる。 例えば，家族や趣味，仕事，旅行，最近の出来事など，日常生活に直接関係のあることや個人的な関心事について，準備なしで会話に入ることができる。	簡単な方法で語句をつないで，自分の経験や出来事，夢や希望，野心を語ることができる。 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。 物語を語ったり，本や映画のあらすじを話し，またそれに対する感想・考えを表現できる。	身近で個人的に関心のある話題について，つながりのあるテクストを書くことができる。私信で経験や印象を書くことができる。
		4級、3級	4級、3級	3級	3級	3級。2級
	B2	長い会話や講義を理解することができる。また，もし話題がある程度身近な範囲であれば，議論の流れが複雑であっても理解できる。 たいていのテレビのニュースや時事問題の番組も分かる。 標準語の映画なら，大部分は理解できる。	筆者の姿勢や視点が出ている現代の問題についての記事や報告が読める。 現代文学の散文は読める。	流暢に自然に会話をすることができ，母語話者と普通にやり取りができる。 身近なコンテクストの議論に積極的に参加し，自分の意見を説明し，弁明できる。	自分の興味関心のある分野に関連する限り，幅広い話題について，明瞭で詳細な説明をすることができる。 時事問題について，いろいろな可能性の長所，短所を示して自己の見方を説明できる。	興味関心のある分野内なら，幅広くいろいろな話題について，明瞭で詳細な説明文を書くことができる。 エッセイやレポートで情報を伝え，一定の視点に対する支持や反対の理由を書くことができる。手紙の中で，事件や体験について自分にとっての意義を中心に書くことができる。
			3級	2級		
熟達した言語使用者	C1	たとえ構成がはっきりしなくて，関係性が暗示されているにすぎず，明示的でない場合でも，長い話が理解できる。 特別の努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。	長い複雑な事実に基づくテクストや文学テクストを，文体の違いを認識しながら理解できる。 自分の関連外の分野での専門的記事も長い，技術的説明書も理解できる。	言葉をことさら探さずに流暢に自然に自己表現ができる。 社会上，仕事上の目的に合った言葉遣いが，意のままに効果的にできる。 自分の考えや意見を精確に表現でき，自分の発言を上手に他の話し手の発言にあわせることができる。	複雑な話題を，派生的問題にも立ち入って，詳しく論ずることができ，一定の観点を展開しながら，適切な結論でまとめ上げることができる。	適当な長さでいくつかの視点を示して，明瞭な構成で自己表現ができる。 自分が重要だと思う点を強調しながら，手紙やエッセイ，レポートで複雑な主題を扱うことができる。 読者を念頭に置いて適切な文体を選択できる。
		2級	2級	2級		
	C2	生であれ，放送されたものであれ，母語話者の速いスピードで話されても，その話し方の癖に慣れる時間の余裕があれば，どんな種類の話し言葉も，難無く理解できる。	抽象的で，構造的にも言語的にも複雑な，例えばマニュアルや専門的記事，文学作品のテクストなど，事実上あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。	慣用表現，口語体表現をよく知っていて，いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。 自分を流暢に表現し，詳細に細かい意味のニュアンスを伝えることができる。 表現上の困難に出会っても，周りの人がそれにほとんど気がつかないほどに修正し，うまく繕うことができる。	状況にあった文体で，はっきりとすらすらと流暢に記述や論述ができる。効果的な論理構成によって聞き手に重要点を把握させ，記憶にとどめさせることができる。	明瞭な，流暢な文章を適切な文体で書くことができる。 効果的な論理構造で事情を説明し，その重要点を読み手に気づかせ，記憶にとどめさせるように，複雑な内容の手紙，レポート，記事を書くことができる。 仕事や文学作品の概要や評を書くことができる。
		準1級、1級	準1級、1級	準1級、1級		準1級、1級

『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』追補版（吉島茂他訳）朝日出版社 2014

評議員　氷野　善寛(目白大学)

1.コロナ下のオンライン授業

コロナウイルスが流行した 2020 年度は，多くの教育機関で手探りの状態でオンライン授業が実施されている。様々な試行錯誤の上，オンライン授業の多くは Zoom や Meet などテレビ会議システムを使ったリアルタイム双方向型授業，Google Classroom や Moodle などの LMS を基盤としながら講義動画や学習コンテンツを使って学習する非同期オンデマンド型授業，そしてリアルタイム双方向型とオンデマンド型の両方を使った複合型に分類される形で実施された。

リアルタイム双方向型授業では，スライドや教科書を画面共有しながら解説，ホワイトボードや黒板の前に教員が立ち，対面授業形式に準じたライブ形式での解説，ブレイクアウトセッション機能を利用した教員対学生，学生同士でのペアワークやグループワークなどの活動を組み合わせる形で授業が行われた。非同期オンデマンド型授業では，講義動画や課題を準備された先生も多いのではないだろうか。準備された学習コンテンツを学生は好きな時間や，指定された時間に取り組んだ。学生にとっては，いつでも，どこでも授業を受けることができる一方，教員にとっては，対面授業と異なる授業設計が必要で，授業準備にかなりの時間が必要だったのではないだろうか。この授業準備では，事前に授業計画を立案し，講義動画や課題を作成，LMS を用いた動画や課題の配置が必要で，授業後にはさらに学生から提出された課題に対する丁寧なフィードバックも必要となった。

結果として,強制的にオンライン授業を行わざるを得ない環境から,教員と学生の ICT スキルが飛躍的に向上し，自身が所有する PC やスマホを使って学習に取り組むというスタイルもある程度定着したのではないだろうか。このことは，今後大学や高校などの教育機関で，学習者が持つ端末を教育に利用する BYOD（Bring Your Own Device）を導入していく契機になるかもしれない。そして今回多くの教員がオンライン授業を進めるうえで，多くの教材を作成した。大学の教科書の多くは教員の対面での解説を前提として設計されているため，オンデマンド型の授業を実施する場合，教科書を解説する講義動画の作成が必須であった。私自身も今学期だけで大小様々ではあるが，200 本以上の講義動画やそれに関連する課題を作成した。これらの講義動画は今後，以前のように対面授業が実施できることになったとしても，使用することができる。同様に多くの教員がこういった講義動画を作成しているのであれば，中国語検定協会が春先に作成したページ（http://www.chuken.gr.jp/study/lectures.html）のように，アーカイブのようにして蓄積しておくもの良いかもしれないと考えている。コロナ後もこういった講義動画を活用することで，知識の獲得はオンラインで，運用や実践は対面授業で，というように反転授業形式を前提とした授業設計ができるかもしれない。

2.デジタル教科書は導入できるのか

ここ最近，デジタル教材の導入について各所で触れられることが多くなった。2020 年 10 月 6 日には，デジタル改革担当相が定例会見で，義務教育で使用する教科書を原則デジタル化するように提案している。コロナの影響で授業のオンライン化が一気に進み，デジタル教科書の議論が出るのは分かるが，高等教育機関においてデジタル教科書を導入するのは実際それほど簡単な問題ではない。そもそもここでイメージされるデジタル教科書とはどんなものか，中央教育審議会初等中等教育分科会の資料（平成 29 年 10 月 2 日）にはデジタル教科書を「教科書を主たる教材として使用することを基本としつつ，学びの充実が期待される教科の一部について，教科書に代えて使用することで，教科書使用義務の履行を認める特別の教材」と定義している。導入で期待されるメリットとして，拡大縮小，ハイライト，共有，反転，音声読み上げ，保存，動画，ドリルなどが掲げられているが，これだけを見れば，ウェブページを使えばできることがほとんどである。たしかに専用の教材ができれば便利ではあるが，動画を表示

する，音声を聞ける，ハイライト表示，関連リンクなどについては現在の紙の教科書と QR コードの組み合わせ，各種アプリを組み合わる形で十分実現可能な内容であり，デジタル教材を導入するメリットがどこにあるのか，今後の議論の深化を期待したい。また，高等教育機関でデジタル教材を導入するうえで，教材自体をどう設計するかという問題以外に以下の点についても検討しなければいけない。

①フォーマット…端末によって画面サイズや使えるアプリケーションが異なる。そのためデジタル教科書を使うために，独自形式のフォーマットを利用するか，ePub や PDF など広く使われているフォーマットを使うか検討が必要である。

②デジタル教科書の導入にかかる費用の総額…デジタル教科書以外に教科書を表示するための端末代・電気代・通信費が必要である。また故障した際の代用品をどうするかも検討が必要である。また大学や高校は義務教育ではないので，機器，設備に対する費用は義務教育とは異なり個人負担となるため，在学期間全体を通じて，紙の教材とデジタル教材でどれぐらい学生自身の負担が変わるかも検討が必要である。

③端末の違い，OS のバージョンアップへの対応…独自形式のフォーマットで作成する場合，しっかりと作りこむことができるが，OS が異なると OS ごとにアプリを準備する必要があり，OS がバージョンアップされるたびに開発者側でアップデートが必要になるケースがある。

④学習環境…授業時間中の電池切れや，学習場所（教室）のネットワーク整備などが必要となる。またバッテリーは使えば使うほど劣化していくため，すべての授業時間で安定して端末を利用するためには，机ごとにコンセントも必要となる。

私自身は，現時点ではデジタル教科書を使ったことはないが，かなり早い段階から「紙の教科書の拡張」という考え方で，教材のデジタル化を進めている。インターネット上に教科書のサポートサイトを作り，そこに教科書の課ごと，あるいは文法ごとに教科書の構成要素をモジュール化した教材を配置し，教科書の各所に配置した QR コードからアクセスさせるというものである（図 1 参照）。教材を小さい単位でモジュール化しているため，異なる複数の教科書を使用していても，使うことができ，汎用性もある。

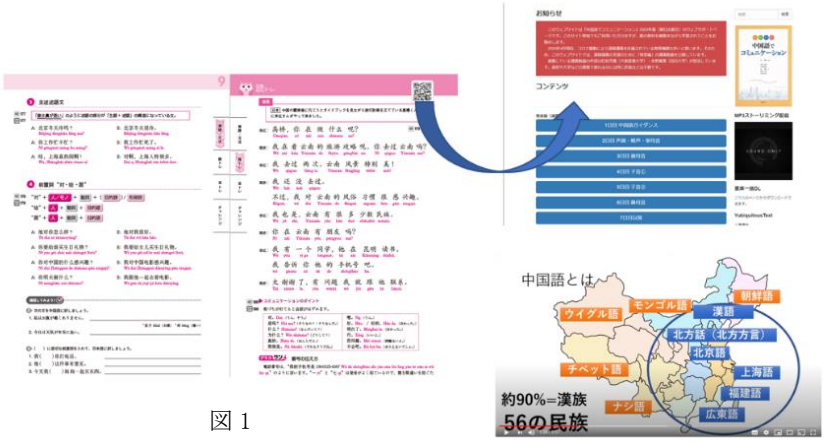


図 1

また中国語学習をサポートするために，デジタル化された音節表（http://www.chlang.org/yinjie/type01_m.php），日本地図を中国語で言ってみよう（http://www.ch-texts.org/contents_japanmap.html），中国語お名前チェッカー（https://ch-station.org/chntext/onamae/）といった初級の中国語学習でよく使う学習コンテンツを作成してきた。残念なことに「日本地図を中国語で言ってみよう」は Flash Player のサービス終了により使用できなくなってしまった。このようにデジタル化された教材はアプリケーションの仕様変更やサービスの終了などにより利用できなくなることもある。また，こういった教材の多くは無料で利用できる形で公開されているが，維持管理には当然コストがかかっており，過去に公開された中国語のデジタル教材には作り手の退職と共に消滅したものもある。今後，こういったデジタル化された教材を発展させていくためには，開発，管理，維持をどのようにするかという点も考えていかなければならない。

3.オンライン教材の整備と ICT 学習環境の向上

オンライン授業に話を戻す。ここでは講義動画の作成とオンラインで中国語学習に利用できるサービスについて少し見ていきたい。

以下，講義動画についていくつか形式と作成時の注意点を見ていく。

①カメラ撮影型…ホワイトボードや電子黒板の前で授業をしたものを文字通り撮影するもので，通常の授業の形式に最も近い形で作成することができる。この形式でスライドを使って動画を作る場合，ディスプレイのサイズにもよるが，スライドの文字はできるだけ大きく（個人的には 28pt 以上），使用する色は 3 色以内で原色，背景は映り込みを防止する観点から白などの淡い色を使用，アニメーションは極力使用しないほうが良い。また 1 つの動画は長くても 10 分以内におさめることを推奨する。

②画面収録型…iPad などのタブレットに取り込んだ教科書のデジタルデータやスライドを表示しながら，ペンを使い，書き込みながら解説する様子を画面ごとに録画したものである。教科書そのものを使う場合には，必ず著作権の利用許諾をとる必要がある点には注意しなければならないが，比較的容易に講義動画を作成することができる。

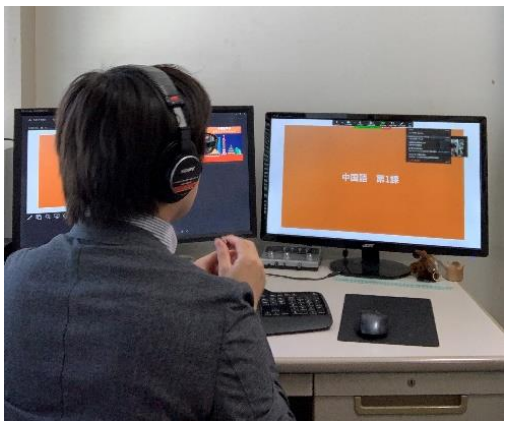


図 2

③ビデオ会議自撮型…Zoom や Meet などのビデオ会議システムを使い，一人で授業をする様子を撮影する方法である（図 2）。リアルタイム講義をする際にも録画し，LMS にアップロードすれば，欠席者も後日授業内容を確認することができる。

④ラジオ講座型…スマホに内蔵されている録音，録画アプリを使い，学習者が教科書を持っている前提で，「〇〇ページを開いてください，この課の内容は～」のように，ラジオ講座でもやるかのように講義を録音，録画する方法である。最も簡単に講義音声・動画を作ることができる。

次にオンラインで中国語学習に利用できるサービスについてもいくつか確認していきたい。

①TTSMP3（https://ttsmp3.com/）…多言語対応の音声合成サービス。中国語にも対応しており，音声化したいテキストを入力して，言語を選択，その上で「再生」を押すと中国語で合成された音声が流れる，必要であれば MP3 でダウンロードすることもできる（無料利用では一日の上限利用可能文字数が設定されている）。

②Speech to text webcam overlay（https://1heisuzuki.github.io/speech-to-text-webcam-overlay/）…カメラで自分の口元を見ながら音声認識にチャレンジすることができる。発音した音声は画面上ですぐに対象言語に変換されるので，音読の練習に使える。

③Ondoku Chinese（https://www.ondoku.org/）…画面に表示された中国語を聞き，読むだけのウェブアプリ，正解が瞬時に判定され〇×が表示される。中国語，ピンイン，日本語の 3 つを切り替えて表示することができるので，中国語の音読だけではなく，日本語から中国語への翻訳練習にも使える。問題自体はログインすればだれでも作ることができる点も便利である。

③中国語音節表（http://www.chlang.org/yinjie/type01_m.php）…スマホに対応した 4 声の切り替えが可能な中国語音節表，クリックしたピンインの音をすぐに聞くことができるので，教科書と併用すると初期の学習がはかどる。

④Quizlet（https://quizlet.com/）…合成音声付きの単語カードを作成するウェブアプリ。カードの表と裏を使ったマッチングゲームなどもできる。

⑤BookWidgets（https://www.bookwidgets.com/）…選択問題，マッチング，空欄補充をはじめとして，想像できるほとんどすべての問題（クイズ）を作成することができるウェブサービス。

今回紹介した以外にも中国語学習に利用できそうなサービスはまだまだあるが，ぜひ多くのサービスを実際に使ってみて，オンライン授業や対面授業を考えるうえで，どれを使うと学習者にとって効果的な学習ができるか考えていただければと思う。

4.オンライン翻訳ツールとオンライン辞書は万能か

オンライン授業か対面授業かを問わず，学生は課題に取り組む際，オンライン翻訳サービスやオンライン辞書を使うことが増えてきた。現在の学習環境において，これらのサービスの使用を妨げることは難しいので，私が担当する授業では発音の学習が終わる頃に，スマホや PC を使った中国語の入力の仕方，翻訳サイトの良し悪し，オンライン辞書の使い方をレクチャーするようにしている。その際，翻訳サービスについては以下の 5 つのサービスの翻訳精度と特徴を紹介するようにしている。

Google 翻訳（https://www.deepl.com/ja/translator）
百度翻译（https://fanyi.baidu.com/）
DeepL 翻訳（https://www.deepl.com/ja/translator）
Excite 中国語翻訳（https://www.excite.co.jp/world/chinese/）
Weblio 中国語翻訳（https://translate.weblio.jp/chinese/）

以下に第 100 回中国語検定試験の準４級～３級の問題の一部を翻訳した結果を示す。

3級	問題	わたしはきょうの宿題をやり終えました。	月曜日に西安の友達に手紙を書きます。
	解答	我做完了今天的作业。	星期一我给西安的朋友写信。
	Google	我今天已完成作业。	我周一将写信给我在西安的朋友。
	百度	我今天的作业做完了。	星期一给西安的朋友写信。
	DeepL	我完成了今天的作业。	周一我准备给西安的朋友写一封信。
	Excite	我搞完了今天的作业。	星期一给西安的朋友写信。
	Weblio	我今天的做功课完了。	给西安的朋友在星期一写信。
4級	問題	祖母は毎晩 10 時に寝ます。	わたしは朝食を食べませんでした。
	解答	我奶奶每天晚上十点睡觉。	我没有吃早饭。
	Google	我的祖母每晚 10 点上床睡觉。	我没有吃早餐。
	百度	祖母每天晚上 10 点睡觉。	我没有吃早饭。
	DeepL	我奶奶每天晚上十点就睡觉了。	我没有吃早餐。
	Excite	祖母每晚 10 点睡觉。	我没吃早饭。
	Weblio	奶奶 10 点每天晚上睡觉。	我没吃早餐。

準4級	問題文	コーヒーを飲む。	きょうはとても暑い。
	解答例	喝咖啡。	今天很热。
	Google	喝咖啡。	今天很热。
	百度	喝咖啡。	今天很热。
	DeepL	我喝咖啡。	今天很热。
	Excite	喝咖啡。	今天非常热。
	Weblio	喝咖啡。	今天很炎热。

実際に中国語検定の準４級～３級の中国語作文問題を翻訳してみると，現時点で，単語置換型の Excite と Weblio は準４級レベル，AI を使っている Google 翻訳は４級レベル，百度翻译は３級レベル以上があることが分かる。DeepL も AI を使っているが検定試験で出題される短い文の翻訳では，文脈を深読みしすぎるため間違いが生じているようであった。結果的に現時点では百度翻译一択であると言える。

次にオンライン辞書であるが，よく利用されているのは，「中国語辞書 － Weblio 日中中日辞典」(https://cjjc.weblio.jp/) ではないだろうか，白水社中国語辞典が収録されているこのオンライン辞書の信頼性は高く学生に使用を勧めているが，「日中」で利用した場合，たとえば「読む」と検索すると，中国語検定準４級で覚えておきたい“看”は９つめに表示される(図３)。結果として何の予備知識もなく学生が使うと，全然違う単語を選んでしまう危険性がある。この状況は愛知大学中日大辞典編纂所の「中国語語彙データベース」(http://hcs.aichi-u.ac.jp/) や「北辞郎」(https://www.ctrans.org/) でも同じであり，用例の確認の方法など具体的な辞書の使い方を最初の段階でしっかりとレクチャーする必要があると感じている。また今後，初級者向けの学習オンライン辞書の導入についても検討していく必要があるのではないかと感じている。

図３

以上簡単ではあるが，今後の対面授業とオンライン授業に関連した諸問題についてまとめた。

伊藤 大輔(目白大学)

1.筆記試験を成立させるための必要条件

筆記試験を筆記試験たらしめる必要条件として，少なくとも①同時性（受験者全員が同時に受験開始），②時間制限（全員が所定の時間内に解答），③試験監督（不正行為の有無を監視）の 3 点が挙がるように思われる。通常の試験では，同一の問題を複数の受験者が解くという形式を取るため，事前に問題が漏洩することを防ぐためには①が欠かせないし，公平性を確保する上で②や③は自明の条件であると言えよう。

今仮に，受験者が試験会場に集まることなく任意の場所でインターネットを介して受験する「リモート試験」なるものを想定してみる。それは果たして試験としての必要条件を満たすことができるであろうか。①に関しては，オンライン会議システムを使用し，問題を一斉にネット配信すれば解決可能である。また，②に関しては，各種 LMS の課題提出機能等を使えば答案提出時刻を管理できる。原理上は電子メールを用いても同様である。ところが，③については現状解決策が見当たらない。

以下,「リモート試験」の実現可能性，とりわけ上記③の問題を克服できるか否かについて検討するのが本報告の主題である。

2.試験監督なしの「試験」

試験監督ができないということは，受験者の行動を統制できないということであり，ノートその他資料の参照，ネット検索，各種コミュニケーションツールを用いた他者への質問，他者の答案の剽窃，AI 翻訳ツールの使用等，一般にカンニングとされる行為はいずれも防ぐことが不可能である。そもそも，試験監督という必要条件を欠いたものは試験と呼べるか疑わしく，いわば「試験もどき」である。以下では，こうした「試験もどき」の意味で，鉤括弧付きの「試験」という表現を用いることにする。

3.カンニングについて

上記のような環境下においては，いくらカンニング禁止を通告したところでカンニングの有無をチェックすることは困難であり，カンニングが疑われたとしても証拠を押さえることはまず不可能である。たとえネット会議システムのカメラで全受験者を画面に映し出したとしても，画面に映らないところにカンニングペーパーがある可能性は排除しようがないし，そもそも受験者が多数の場合，全画面を人間が監視することは非現実的である。

一方，ここで少し見方を改めると，インターネットに接続中で，受験時間中の行動について一切制限を受けないという条件は，全受験者に共通しているとも言える。たとえカンニング前提であっても，少なくとも受験者の能力の相対評価は可能ではないだろうか。もちろん，可能な限りカンニングがしにくくなるような工夫，たとえば制限時間をタイトにするといった対策はするべきであろう。その上で，受験者の絶対的能力を不完全ながらも測れる，少なくとも受験者間の相対的分布を把握できる「試験」のあり方を模索するのが建設的であるように思われる。

4.AI 翻訳について

図 1 は，日本で市販されているある 1 年生用教科書の一部を「**百度翻译**」アプリでスキャンしたものである。管見の範囲では，今のところ長文になると精度が落ちるものの，こうした簡単なダイアローグや初級レベルの単文についてはほぼ完璧に対応されてしまう。図 1 は中文日訳の例であるが，日文中訳についても同じことが言える。こ

の現状を，教師はしっかりと認識しておく必要がある。

したがって，中国語検定を含む一般的な試験において定番である「次の日本語の文を中国語に改めなさい」式の設問は，試験監督ができないリモート「試験」の環境には極めて不適切であるということが言える。次節では，それに代わる出題形式を模索する。

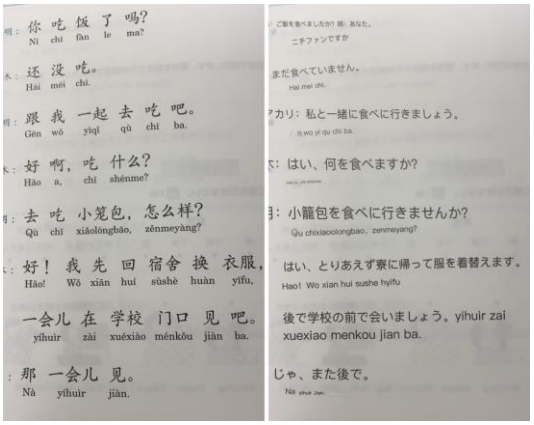


図 1

5.出題形式について

5.1.自由作文:採用不可

【例】あなたが昨日したことを順に中国語で記しなさい。

【例】あなたの趣味を中国語で紹介しなさい。

これだと，スキャンする対象を与えないため一見有効であるように思われるが，設問に応じた文章を日本語で書けばそれをスキャンできてしまう。したがって，有効な出題形式とは言えない。

5.2.形式指定作文:採用難

【例】「人がある場所で…する」という意味の中国語の文を 10 個作りなさい。

【例】形容詞述語文を 10 個作りなさい。

1 例目は簡単に日本語で作文しスキャンできてしまう。2 例目は「述語とは何ぞや」「自分の知る語彙の中で形容詞はこれとこれと……である」と考えを巡らせる必要があるため 5.1 よりは思考力が問われるが，それでも日本語で作文したものをスキャンできてしまう点は同様である。

5.3.語彙指定作文:採用可

【例】次の単語を使って意味のある中国語の文を 10 個作りなさい。

我　看　买　吃　喝　咖啡　书　杂志　西瓜　饺子　电视　手机　可乐

これだと，日本語の文を作ってスキャンすることは防げる。文法的知識を問うのに有効であるのと同時に，コロケーションすなわち語彙的知識を問える点もメリットと言える。難点としては，中級以上の複雑な文になった場合，採点者が母語話者でないと文の成否の判定が困難になるという点が挙げられる。

5.4.ピンイン:採用可

【例】次の中国語を日本語に直しなさい。

Wǒmen hē chá, yě hē kāfēi.

「**百度翻译**」は，現時点ではこのようなピンインのみによる表記はそもそも中国語とすら認識せず，翻訳が不可能であることが今回試した結果判明した。したがって，この形式ならば訳させる形式も有効である。なお，次のようにすれば，文脈に応じて適切な語彙を駆使するという意味での表現力を問うことも可能である。

【例】空欄を適当な単語でそれぞれ埋め，できた文を日本語に直しなさい。

Wǒmen hē　（　　）, yě hē　（　　）.

難点としては，このような表記を中国語圏で実際に目にする機会がまずないという点が挙げられる。この出題形式を採用することに問題はないが，漢字表記による出題形式を併用することが教育的観点より不可欠であろう。

5.5.並べ替え:採用可

【例】意味のある中国語の文になるよう並べ替えなさい。

爱　爱　我　我　人　不　的　。

これを「**百度翻译**」でスキャンしても翻訳は不可能である。また，3〜4 語程度をシャッフルしたぐらいでは翻訳されてしまうこともあるが，正しい訳が分かったからといって正しく並べ替えられるとは限らない。

【例】足りない単語を 1 つだけ加えた上で，意味のある中国語の文になるよう並べ替えなさい。

爱　爱　我　我　人　不　。

このようにアレンジすることによって，難易度を調整することもできる。逆に，余分な単語を 1 つだけ除かせた上で並べ替えさせるという手もある。

5.6.穴埋め:採用可

【例】空欄を適当な漢字 1 字で埋めなさい。

⑴ **儿子（　　）妈妈说了一顿。**（文法系）

⑵ **会议（　　）两点开始。**（文法系）

⑶ **她喜欢打乒（　　）球。**（語彙系）

⑷ **我从来没有（　　）过谎。**（語彙系）

⑸ **我昨天买了一（　　）牛仔裤。**（文法・語彙系）

空欄を含む文であっても，場合によってはスキャンすることで翻訳が可能なこともあるが，翻訳できたからといって即正解にたどり着けるわけでない。この点は 5.5 のケースと同様である。

この出題形式では，文法的知識と語彙的知識のどちらも問うことができる。⑴⑵は，空欄の位置には介詞が求められるという文法的知識を問う設問である。一方⑶⑷は，一部を空欄にした単語を再現させるという形で語彙的知識を問うている。「日本語の単語をそれぞれ中国語に直しなさい」という形の単語テストが AI により一瞬で対応可能であることは明白であり,それに代わる変則的な単語テストとしてこれらを位置付けることもできる。もちろん，文法と語彙とは密接に結びついており，単純に二分できるものではなく，⑸は数詞と名詞の間という位置から空欄には量詞が入るということを判断する点では文法的であるが，コロケーションよりどの量詞を用いるかを判断する点では語彙的である。文法と語彙のどちらか一方に偏らず，両者をバランス良く配分するのが妥当であると思われる。

6.実践報告

6.1.概要

以下，本節では報告者が 2020 年春学期にリモートで実施した「試験」のうち，2 つのクラスにおける事例について報告する。いずれのクラスにおいても,「試験」に先立ち，授業中に「**百度翻译**」とその使い方を紹介しておいたことを付記する。公平性を期しての配慮である。

「試験」の具体的な手順は以下のとおりである。まず，問題をパスワード付き PDF ファイルにし，LMS で配布する。次に，受験者を Zoom のミーティングルームに入室させ，教師が必要な指示を出す。受験者はカメラとマイクをオフにして入室させたままにし，教師の指示が常時聞こえる状態にしておく。試験開始時刻に Zoom でパスワードを一斉に通知する。試験中教員は待機し，質問があれば対応する。時間が来たら教師が指示を出し，LMS の課題提出機能を利用して答案を提出させる。答案の形式は，1 年生は紙に手書きしたものを写真に撮る形式に統一し，2 年生は 1 ファイル内で答案が確認できる限りにおいて自由とした（その結果，中国語をタイプした Word ファイルを提出した者が若干名いた)。

6.2.実践 1:1 年生文法クラス

1 つ目のケースとして，中国語専攻 1 年生の文法クラスで「期末試験」と称して行った「試験」について報告する。末尾に掲載した資料 1 がその問題である。制限時間は 20 分とした。受験者は 48 名で，平均点は 100 点満点の

68.4 点であった。平均点を見る限り，不自然に高くも低くもないが，果たしてどれほど受験者の実力を反映できていたかは今後検証すべき課題である。

大問 1 および 2 は，今回に限らず報告者がこれまで毎年出してきたタイプの設問である。大問 1 はあえて語単位でなく文字単位の音を問うもので，いわば「表音文字としての漢字」の知識を問うてみようという試みである。大問 2 は，中国語専攻の学生として，ピンインの瑣末にも見えるルールといえども疎かにすべからずという趣旨で出す設問である。今回はリモートなので，いずれも試験中に調べたり AI を用いたりすることが可能であるが，それをやると時間が不足することが予測されるため，特に中止する理由はないと判断した。

大問 3 および大問 5 は，上記 5.6 を踏まえた穴埋め問題であり，大問 4 は同じく 5.4 を踏まえたものである。いずれも「**百度翻译**」でスキャンし，完璧な日本語訳が出てこないことを確認した上で出題した。

6.3.実践 2:2 年生講読クラス

2 つ目のケースとして，教養科目 2 年生の講読クラスで「期末試験」と称して行った「試験」について報告する。末尾に掲載した資料 2 がその問題である。制限時間は 30 分とした。受験者は 32 名で，平均点は 100 点満点の 71.3 点であった。平均点については 6.2 のケースと同様のことが言える。

このクラスでは，聞き取り力も発音も表現力もほぼ一切問わず，とにかく読んで正確に意味をつかめるようになることのみを目標として徹底した。その目標を達成するために，日本語母語話者が持つ漢語の知識を最大限に活用することを，そのデメリットに触れつつも強く推奨した。

大問 1 は，日中同形語が多数存在する以上，日本語母語話者はたとえば**“极”**＝「極」だということをぜひ知っておくべきである，という趣旨を踏まえた設問である（正解例は**“极端”**）。「「積極」を中国語の簡体字表記に改めなさい」や「**“积极”**を日本語表記に改めなさい」とすると AI が使えてしまうため，このような変則的な出題形式を採用したが，「**“极”**を日本式の漢字に改めなさい」としたほうがよりシンプルだったかもしれない。

大問 2 は，「漢字を見て日本語の漢語をヒントにする」という方針と，すべて漢字で表記してしまうと AI で翻訳できてしまう事実とのジレンマの産物である。試しにすべて漢字表記にして**“百度翻译”**スキャンしてみたところ，ほぼ完璧な日本語訳が出たので，それが出なくなる程度にピンイン表記を混在させた。

大問3および4を作成する際には，翻訳によらずに読解力を測るのがいかに困難であるかということを痛感した。仮に AI を用いて完璧な訳が得られたとしても，そこからさらに踏み込んで考えないと正解にたどり着けないタイプの設問とはどのようなものか。それを求めて四苦八苦した結果，たとえば副詞**“就”**の機能というメタレベルの問いや，同義語の抜き出しなどといった形式を含めることとなったが，苦し紛れの感は否めない。

7.まとめ

以上より，問題の量および質の面で多少の工夫を加えることにより，従来型の試験に準じる，成績評価の材料となる「試験」がリモートでも不可能ではない，と主張することはできないであろうか。身も蓋もない言い方をすれば，「カンニングも含めて皆平等に競い合えばよい」。諸賢のご意見・ご批判を乞う次第である。

もっとも，上記は言うまでもなく 2020 年現在での言明である。AI は人間と比較して徐々に侮れない精度に達しつつあることが窺え，今のところ限界を露呈してもいるが，ここまでの発達のペースからして今後の動向については予断を許さない。蛇足ながら，その点を改めて強調して本報告の結びとしたい。

資料１　【1】枠内より発音が完全に同じであるペアを５組選び出しなさい。答えは「○と△」の形で５つ並べて書くこと。

例：他と她（どちらも tā）

十	店	典	国	是	下	四	鞋	天	难	九	毛	猫	夏	室	写	电	酒	南	果

【2】ピンイン表記として正しいものをそれぞれア～エよりそれぞれ１つ選択しなさい。

(1)	留	ア	líu	イ	liú	ウ	lióu	エ	lioú
(2)	学	ア	xǔe	イ	xüé	ウ	xúe	エ	xué
(3)	都	ア	dōu	イ	doū	ウ	duō	エ	dūo
(4)	一个	ア	yī ge	イ	yí ge	ウ	yǐ ge	エ	yì ge
(5)	不喝	ア	bù hé	イ	bú hé	ウ	bù hē	エ	bú hē

【3】空欄を埋めるものとして正しいものをそれぞれア～エよりそれぞれ１つ選択しなさい。

(1)	他听(　)。	ア	饭	イ	茶	ウ	广播	エ	面条
(2)	你们学校有(　)学生？	ア	谁	イ	几	ウ	哪	エ	多少
(3)	今天(　)星期天。	ア	不	イ	没有	ウ	不是	エ	不在
(4)	桌子上有一(　)杂志。	ア	件	イ	本	ウ	枝	エ	台
(5)	你的裤子非常(　)。	ア	好吃	イ	好喝	ウ	好看	エ	好听

【4】それぞれの意味を日本語で答えなさい。

(1) Jiějie bù chī zǎofàn.

(2) Nǐ yígòng yǒu jǐ shuāng xié?

(3) Zhè tiáo qúnzi shì wǒ de.

(4) Yīyuàn zài xuéxiào duìmiàn.

(5) Zhōngguó miànjī hěn dà.

【5】意味の通る文にするために空欄に埋めるべき漢字１字をそれぞれ答えなさい。

(1) 我们都(　)电视。

(2) 我有两(　)电脑。

(3) 这是王同学的(　)机。

(4) 抽屉里有一把(　)匙。

(5) 小卖部的东西非常便(　)。

資料２　【1】それぞれ空欄を埋めて中国語の単語を作り、埋めたものを答えなさい。ただし「讲义」および「冲击」を除く。

(1) 极(　)　(2) 识(　)　(3) (　)义　(4) (　)卫　(5) (　)击

【2】それぞれの意味を日本語で答えなさい。なお、あえて漢字とピンインを併用している。

(1) 我们 hǎo róngyì cái 在一个 bān li。

(2) 他 bùjǐn 工作 máng, yě 在忙着 zhǔnbèi 考研。

(3) Wúlùn 他的主张是 shénme, wǒ dōu huì 去采访的。

(4) 你 yīnwèi 一直在 yǎngshì，所以有 zhūduō 不满。

(5) 他 chúle 打败了几个 duìshǒu 之外，还 huòdé 了世界 guànjūn。

次頁に続く

【3】次の文章に関する(1)～(5)の記述について、それぞれ正しければ「○」、そうでなければ「×」と答えなさい。

上个星期天，我去参加了高中同学的聚会。毕业已经十多年了，我们这些同学隔一年开一次同窗会，从来没有间断过。每次聚会的时候，大家互相①问候，谈谈工作生活，最后一起喝酒，一起唱歌，每次都很愉快，可是这次的同窗会，和以前有点儿不一样。大家见面打过招呼之后，谁都不怎么说话了，都拿出手机，低着头看了起来。餐厅里十分安静。

看到这个场面，高中的时候②就非常爱说话的方秀梅拍了拍手大声说 ："你们怎么都不说话呀？听我给你们说一件我们学校的事儿好吗？""好哇，你快说吧！"大家一边看手机一边说。

方秀梅现在是小学老师。她说，有一天，她让学生们写一篇作文，题目叫《我的爸爸妈妈》。学生们写的大同小异，都是爸爸妈妈是什么样的人，在哪里工作，多么关心自己等。只有一个女生写的和别人不一样。她在文章里说："我的爸爸很忙，每天都很晚才回来，回到家就躺在沙发上看手机、玩儿游戏。我让他和我一起玩儿，他总说没时间，让我去找妈妈。可是妈妈也最喜欢拿手机玩儿。她总用手机给我拍照片，然后发给朋友们。我就在她面前，可是她不看我，也不和我说话，过几分钟，③就看一次手机。我真不明白，爸爸妈妈到底是爱我，还是爱手机？"

(1) 筆者の高校卒業から現在までの時間は、10 年以上 11 年未満である。

(2) 下線部①を別の表現で言い替えた箇所が文章の 3 行目にある。

(3) 下線部②「就」より、方秀梅が高校時代に今よりもおしゃべりであったことがわかる。

(4) 女の子の父親は、彼女に母親を探しに行くよう言った。

(5) 下線部③「就」により、母親が携帯電話をいじる頻度が高いことが示されている。

【4】次の文章について、後の問にそれぞれ答えなさい。

我好多年不看乒乓球比赛了，原因很简单：不①好看，没意思。不过，最近乒乓球忽然变得好看起来了，因为中国队开始②输球了。

今年，③中国队吃了好几场败仗，而且败得很惨。特别是突然冒出一个十六七岁的日本小姑娘，打败中国几个世界冠军，竟然在亚洲锦标赛上拿到了冠军。④别说那些狂热的中国乒乓球球迷们无法忍受，连我都大吃一惊。

我原本是个乒乓球球迷。上小学时，中国还没有像现在这么开放，参加国际比赛的项目很少，就算参加的，水平也相距甚远，唯独乒乓球是个例外，总能得世界冠军。那时，我把报纸上乒乓球比赛的报道剪下，贴在笔记本里，时常翻着看。

到高中时，乒乓球已完全是中国人的天下，干脆就被称为了"国球"。中国⑤选手极少失败，一旦输了，就会受到国人的责难。结果出现了一个现象：国际比赛的冠军常常是两个中国人在争夺。这样的比赛毫无悬念，看起来没劲，人们渐渐地丧失了新鲜感。

现在情况又变了。不光是中国女队的主力选手被日本小姑娘打败，男队也遇到了有实力的对手，几个世界冠军无一例外地都被打败了。

有人说国际乒联总在给中国设各种障碍，阻挡中国一家独大；有人说日本开始重点强化培养新人，让十几岁的小孩儿参加成人比赛， 以便到东京奥运会时能抗衡中国；有人说中国乒乓球队自乱阵脚，给了外国球员机会……等等原因不一而足。而我却只看到一种久违了的现象，那就是大家又开始议论乒乓球了。

(1) 下線部①に代表される「"好"+動詞」の諸例は意味的にどのような共通点を持つか。簡潔に答えなさい。

(2) 下線部②の同義語を本文中から 1 つ抜き出して示しなさい。

(3) 下線部③より、今年の中国チームの敗戦数についてどのようなことがわかるか。簡潔に答えなさい。

(4) 下線部④に類似する表現を用いて「连小王都不知道，别说小李了。」という文を作ることができる。この文の話し手は「小王」と「小李」のどちらがより博識だと認識しているか。

(5) 下線部⑤の同義語を本文中から 1 つ抜き出して示しなさい。

ICT を苦手とする教員とオンライン授業―中国語授業実践報告―

評議員　奥村 佳代子(関西大学)

1. はじめに

ICT を苦手とする一教員として，2020 年度春学期の全面オンライン授業をどのように行ったか，また，そこで気づいた点をご報告したいと思います。なお，専門の中国語の授業ではなく，卒業するために必要な第二外国語として中国語を選択した学生のための授業に関しての報告です。

勤務校である関西大学では，春学期の最初の 2 週間は休講，3 週目からオンライン授業を行うことになり，学習管理システム（関大 LMS），オンデマンド，リアルタイム（Zoom など）で授業を進めていくことになりました。授業形式の大きな変更とともに，最終授業日に行っていた共通問題による「到達度の確認テスト」は実施できないということが，成績をつける上で大きな問題となりました。

また，私はそれまで関大 LMS を活用していなかったために，その使い方の勉強から始めました。

2. 実践報告(1)

クラス 1

①科目名「中国語 4a」（月曜 2 時間目）

②受講者　全員 2 年生（32 人）

③授業で取り入れたもの　⑴関大 LMS 授業時のチャットでのやりとり・資料配布・課題提示と提出と管理

⑵Zoom 発音練習・文法説明

＊Zoom は 13 回の授業のうち 8 回利用

④教科書　『ことばと文化　一挙両得　中級中国語』陳淑梅/陸薇　朝日出版社　2017

＊講読テキスト　日本語訳付き

⑤スケジュールと内容　各課 3 コマ（1 課につき 3 週）→ 各課 2 コマ（1 課につき 2 週）

Zoom 発音練習，全員が一人ずつ発音する時間を設ける

文法ポイント，練習問題，ドリル，確認問題

⑥スケジュール例

5/25　本文 1 とポイント，前半 45 分は Zoom で発音練習，学生半数が個別発音

課題：文法ポイントの練習問題，本文全文を簡体字で書いて提出（当日中）

6/1　本文 1 と文法ポイントの補足（作成した資料を使用），本文 2，前半 45 分は Zoom で残りの学生が個別発音

課題：本文を書き写し（2 回目）動詞に下線を引いたものと，本文 2 を完成させて提出（当日中）

6/8　ドリルと確認問題，関大 LMS のチャットで指示，質問を受け付けつつ，学生は各自教科書ドリルと，関大 LMS に提示した確認問題に取り組み，課題として提出（当日中）。すべて手書き。

Zoom やチャットに慣れてきた翌週以降は，ペースアップ，1 課につき 2 週で同じ内容を進めました。

Zoom は便利ですが，次のような方針を立てました。

i　全員参加

ii　50 分以内（メリハリをつけるために）

iii　全員参加でなくなった時点でとりやめる（実際に 1 人の学生が参加できなくなったため，途中で Zoom を使うのはやめ，関大 LMS のチャットのみに切り替えました。）

3. 実践報告⑵

クラス 2

①科目名　「中国語 1a」（木曜 1 時間目）

②受講者　12 人（全員再履修者）

③関大 LMS をフル活用　チャット・課題提示と提出と管理

④教科書　『改定版　大学生のための初級中国語 24 回』杉野元子/黄漢青　白帝社　2019

クラス 3

①科目名　「中国語 3a」

②受講者　9 人（全員再履修者）

③関大 LMS をフル活用　チャット・課題提示と提出と管理

④教科書　『大学生のための中級中国語　20 回』杉野元子/黄漢青　白帝社　2019

この両クラスは，Zoom は使用できないという学生が最初から複数名いたため，関大 LMS で全てを行うことにしました。授業時は，常にチャットでやりとりし，課題の提示や提出をチャットで行いました。これは，このような少人数であったから可能であったことで，特殊な例かもしれません。ただ，文字だけではありますが，学生一人ひとりの反応を，その場でチャットで受け取ることができたので，スムーズに進めることができました。

4. 授業に関する統括

クラス 1，2，3 共通

⑴良くなかった点（オンライン授業となったためにできなかったこと）

①暗誦

②正規テストの実施

③十分な発音練習

⑵あきらめざるを得なかった点

①頻繁に小テストを行うこと

②学生の回答や発言による話題の広がり

③学習計画の達成（学習範囲が狭くなった）

⑶良かった点（オンライン授業で強化できたと思うこと，個人的に気づいた点）

①中国語を手書きする量の増加→学生の中国語学習量の増加

「良くなかった点」「あきらめざるを得なかった点」をカバーするために，書く量を増やしました。オンライン授業は，書く量を増やすきっかけとなったと言えます。教室での対面授業となった現在でも書く課題は継続しています。

②ひとつの単元に時間をかけて取り組めた（学習範囲は狭まりましたが…）

③教室での対面授業であるか，オンラインであるかに関わらず，学生が勉強するという行為（「読む，聴く，書く，発音する（話す）」）は同じであり，学習教材や学習の仕方は従来どおりでも可能であることがわかりました。

クラス 2，3 について，⑶良かった点の補足です。

①再履修クラスでは以前より本文をただ書き写す作業は取り入れていましたが，オンライン授業のもと，学生は想像以上に書いてきましたので，書いて学習する量を大幅に増やすことができました。教室での対面授業となった現在でも書く課題を多く取り入れています。

こうした課題や作業によって，学生に対しては，テストで良い点を取ること，単位を取ることだけが目的ではなく，身に着けることの重要性に気づいてもらうことを期待するとともに，私自身は，学習過程を評価することの意義を考え直すきっかけとなりました。

②学生との言葉（文字）によるコミュニケーションが想像以上に実現できました。こちらから，提示した資料を確認し保存したかどうか，問題はないかどうか等々を，逐一チャットで投げかけました。文字でずっと残る分，誰も反応していないと学生側も気がひけるのか,必ず返答がありました。文字で示さざるを得ない状況であったことと，それを裏返せば面と向かってのやりとりは苦手でも文字で送れば良いという状況であったことが，意外にうまく作用したのだと思います。

5. 評価について

クラス 1

①平常点　出席状況/発音参加/課題提出状況

②期末課題（関大 LMS で提出）

ⅰ 学習範囲の本文の書き写し 5 回ずつ→3 回ずつに（提出期間は 10 日程度）

＊学生からの要望が出たのを受け，日頃の課題の積み重ねがあるということと，他の授業との兼ね合いもあるだろうと考え，回数を減らしました。

ⅱ 本文指定個所の発音（提出期限は最終授業日当日中）

③期末小テスト

最終授業時間中の決められた時間に関大 LMS 機能で，選択問題と並べ替え問題合計 35 題，制限時間 10 分で実施しました。10 分は，私が作成した 35 題の問題をひたすら画面に集中して解答し続けるのに必要な制限時間として設定しました。

④評価割合は，⑴と⑵で 80 点以上/⑶20 点

⑤小テストの結果

1 題 1 点，制限時間 10 分，受験者数 32 人

最高点 32 点，最低点 10 点，平均点 23.4/35

32 点〜30 点 3 人，29 点〜25 点 12 人，24 点〜20 点 10 人，19 点〜15 点 4 人，14 点〜10 点 3 人

クラス 2，3

①平常点　出席状況/チャット参加状況（練習問題など）/課題提出状況

②期末課題 各課本文の書き写し 10 回ずつ（提出期間は 10 日程度）

③評価割合 ⑴7 割 ⑵3 割

④クラス 2，3 は「勉強した」という事実を重視することにしました。

6. 全体を振り返って

春学期のオンライン中国語授業を振り返り，気づいた点を以下に羅列します。

⑴関大 LMS（チャット機能，レポート提出機能，テスト機能）と Zoom という限られた授業方法，授業環境であった。

…他にもオンライン授業のやり方は様々あり,インターネット上には利用できるサービスが多々あると思いますが，それらを使いこなすことは私にはできなかったこともあり，関大 LMS と Zoom による授業となりました。ただ，学生との接触の仕方は限られましたが，資料や課題の提示により，中国語を教えるという側面は十分に成立したと思います。

⑵学生は，チャットあるいは Zoom による授業に非常に協力的であった。
…オンライン授業には学生の主体性がより不可欠だと感じました。

⑶学生は，毎回の課題に取り組み，特に手書きの課題を多くこなした。

⑷教員は，授業時間を利用して課題に取り組めるようにするための時間配分や，姿や表情や声を伴わない授業のための資料作成を工夫する努力をした。
…必ずしも成功したとは言えませんが，できるだけ丁寧に，話しているように書くように心がけました。

⑸チャットでのコミュニケーションは概ねスムーズであった。

⑹リアルタイム授業（ここでは Zoom）の実施に関しては，学生への配慮が過度ではなかったか。
…リアルタイム授業の継続のために，もう少し学生側への協力を求めても良かったのではないか，リアルタイム授業が可能であった大多数の学生への配慮が逆に欠けていたのではないだろうか，という点は反省するとともに，今後のオンライン授業では見直したいと思っています。

⑺Zoom の活用法に問題はなかったか。（ライブ感の欠如）
…学生とのやりとりはできるものの，学生による発言は生じにくかったため，Zoom の用い方自体を勉強し直すとともに，LMS の掲示板機能などを活用して積極的に話題を作るなどの工夫が必要だったと思っています。

⑻テストの実施回数を見直す必要はないか。
関大 LMS の使用に熟達していなかったことと，オンラインテストの作問に不慣れであったために，テストの実施が大問題となってしまいました。この点はぜひ改善したいと思います。

⑼テストよりも，勉強したという事実を重視した。
…書いて覚える，書いて身につけるという，超アナログな方法ですが，それを学生はたくさんこなし，私は，学生は十分に勉強したのである程度身についたはずだと考えました。

⑽授業を見直すことができた。教え方（何を用いてどう教えるか）は大事，正しく教えること（教える側の中国語の知識と能力）が大事。

⑾オンライン資格試験への期待
…オンライン試験を各大学，各教員がやるのもいいですが，外部の資格試験合格を単位によみ替えたり，評価の対象とする教育機関も多くありますので，オンライン中国語検定試験を実現させてください。（中国語検定試験への願望です）。

オンライン授業における「感応の動線」の確保について

理事　加藤 徹(明治大学)

当日，パワーポイント（最後をご覧ください）を提示しながら口頭で説明した内容は，以下のとおりです。

1. 感応の動線について

中国語の授業における「感応の動線」は，私見によれば

⑴スクランブル交差点型（＝観衆型，演習型）

⑵パノプティコン型（＝観客型，講義型）

⑶放送形式（＝視聴者，テレビ・ラジオ講座型）

の 3 つに大別できます。

⑴は，受講者が積極的に発表を行い，互いの顔を見ながら受講者どうしで刺激を与え合う授業。教員からは，受講者ひとりひとりの顔がよく見える。⑵は，受講者は教員の顔を見ながら，教室の雰囲気や隣席の受講生の反応などを感じられる授業。大教室などを除き，教員からは，受講者全員の顔が見える。⑶は，受講者は互いの顔をリアルタイムでは見ることができない。教員も，リアルタイムで受講者の反応がわからない。

参考　http://www.isc.meiji.ac.jp/~katotoru/higashiajia-flow.html

この 3 形式には，それぞれメリットとデメリットがあります。

オンライン授業，特にオンデマンド型では放送形式になりがちです。今年の 1 年生は，入学式も対面授業もなかったため，少数の例外（寮生活を送るスポーツ推薦入学者や，付属高出身者など）を除いて，他の受講生と「友達」になる機会がありませんでした。

筆者は，中国語のオンライン授業は，勤務先の大学の手引きのとおりオンデマンド型で行っていますが，特に今年の 1 年生の特殊事情にかんがみ，「アンケートの回答の共有（匿名性の確保）」や「レポート（ドリルの回答，日本語訳）の公開添削」に力を入れています。

2. オンライン授業の決定から開始までの混乱

「大変」は「大いなる変化」でもあります。「危機」には危険と機会の両方があります。

過去半年間，私のような機械音痴の文系教員が，ICT スキルの向上を強制された経緯について，ふりかえります。

3. オンライン授業の実施で気づいたこと

毎回のアンケートで得た学生の声から学んだ教訓を，いくつか紹介します。

4. インターネットを活用した中国語イベントの試案

張勤先生のご発表の資料にもあった CEFR（セファール）の B2 の中の「自分の興味関心のある分野に関連する限り，幅広い話題について，明瞭で詳細な説明をすることができる。時事問題について，いろいろな可能性の長所，短所を示して自己の見方を説明できる」について，これと関連する課外授業的な中国語イベントについての試案を述べました。

以下，当日使用したパワーポイントの画像です。

オンライン授業における
「感応の動線」の確保について

2020年度中検フォーラム
「ポスト・コロナを見据えて～新しい中国語教育・学習・試験のあり方を考える～」

2020年10月17日　　加藤　徹　KATO Toru　明治大学 法学部

「感応の動線」とは

参考
http://www.isc.meiji.ac.jp/~katotoru/higashiajia-flow.html

「オンデマンド型」を「放送形式」にしないための工夫
　　アンケートの回答の共有(匿名性の確保)
　　レポート(ドリルの回答、日本語訳)の
　　公開添削

Oh-o! Meiji を活用しての実践例の紹介

庚子大乱･･･

「大変」は「大いなる変化」でもある。
「危機」には危険と機会の両方がある。

3月23日　明治大学教務部「オンライン授業に関する 学部等授業実施機関向け説明会」資料より

立命館大学

授業開始日は当初予定どおり４月６日開始
４月６日から５月２日までの間は感染拡大防止期間とし、
授業は教室では行わず、WEBを活用した形態に切り替えて行います。

この他の大学は，本学と同様に，現時点では単に授業開始日を繰り下げることのみの発表を行っている（授業期間の終了日は明示していない，不足する授業回数の補填方法もはっきりと明示していない）が，これが長期化した場合，立命館大学のような形で対応せざるを得なくなると予想されます。

他大学における授業開始日繰下げ状況＜参考＞

早稲田大学	4/6→4/20以降	立教大学	4/9～4/30 一部ｵﾝﾗｲﾝ授業
慶應義塾大学	4/7→4/30	青山学院大学	4/7→4/21
上智大学	4/13→4/27	中央大学	4/9～4/22 特別休講期間
駒澤大学	4/10→4/24	東京理科大学	5月へ繰下げ
東洋大学	4/6→4/20	法政大学	未発表

(承前)　3月23日「オンライン授業に関する学部等授業実施機関向け説明会」資料より

(承前)3月23日「オンライン授業に関する 学部等授業実施機関向け説明会」資料より

４月２日（木）明治大学 法学部　主任会議

オンライン授業（教材の作成・配信）等の検討・調整等
(1)授業開始日の再度の繰り下げ － 5月7日(木)からに変更
(2)オンライン授業について
　　特に兼任講師(非常勤講師)の先生方へ連絡する

2020年度 明治大学法学部 中国語 担当教員13名
　専任教員2名、兼任教員11名
（アイウエオ順）石田友美　郭莉莉　加藤徹　川野明正
　　角屋明彦　木之内誠　呉敏　黄漢青　佐々木勲人
　　西川和孝　平井徹　劉渴氷　魯大鳴

明治大学 Oh-o! Meiji と Commons-i

4月3日付 明治大学法学部事務室から 教員向け　一斉メール　抜粋

1.シラバスの変更

シラバスは，Oh-o!Meijiシステムの「シラバス管理」から修正をお願いいたします。

修正期間　4月6日（月）10：00～4月27日（月）17：00

① 授業回数の変更に伴い，「授業内容」の修正をお願いいたします。

② 教科書販売が授業開始前から行われるため「教科書」についてあいまいな記載がないようご確認ください。

③ 「成績評価の方法」についても，あらためてご確認ください。

文部科学省

4月6日付 法学部事務室からの一斉メール　抜粋

４月３日付けで学年暦の変更に伴う授業回数の変更によりシラバスの修正をお願いいたしましたが，文部科学省からの方針が変わり，「授業は１４回分を確保し，不足する２回分はオンライン等で補う」との案が示されました。既に授業内容の検討やシラバス修正の作業に取り組んでいただいているところ，誠に申し訳ございません。一旦，４月３日の対応依頼を撤回させていただきたくお願いいたします。

4月8日　明治大学メディア支援事務室から教員へ一斉メール　抜粋

本学では新型コロナウィルス感染症拡大の状況を鑑み，オンライン授業における

・収録によるコンテンツ作成

・リアルタイム授業

を実施するためのツール「Zoom」を全学的に導入することを決定致しております。各学部・研究科・機関の事務室にて取りまとめております本メールアドレス宛てに，4/8（水）以降，順次Zoomからアカウント招待メールが届きますのでご承知おきいただけますよう，よろしくお願い致します。

補足）昨今ニュースで取り上げられているZoomのセキュリティ対策に関しまして，順次対応がされております。状況がまとめられているページを補足までにご案内致します。

https://symphonict.nesic.co.jp/zoom/notification/

教員からの加藤宛のメールより　4月

・教員A

「お知らせありがとうございます。●●大学からすでにオンライン授業に関する資料を送ってくれました。A型（オンデマンド配信）とB型（リアルタイム配信）二種類があります。Bのほうが語学向けらしいです。」

・教員B

「初級中国語については，いま担当している●･･･●と絡めた教材を提供できないかボンヤリ考えていたところですが，中級についてはどうしたらよいものか，見当もつきません。」

・教員C

「急なオンライン授業で戸惑っております。

基本的に試験は難しいので、課題中心とならざるをえないと考えております。

今の所、音声付きのPPTをオンデマンドでアップし、いつでも学生が見られるようにするぐらいしか方法はないと考えております。

実際、以前働いていた●･･･●大学では、こうした形式で授業を行っていました」

・教員D

「私も少しずつ遠隔授業の準備を始めてはおりますが、まだまだ何をすれば良いのか手探りの状態です。ご紹介いただいたサイトからも、貴重なヒントをたくさん得られると思います。」

4月　オンライン授業に向けた準備

加藤徹の明治大学での担当科目のうち

大学院の授業　少人数なのでZOOMによる「リアルタイム」で。

学部の授業　中国語も含む。

40名～250名なので「オンデマンド型」

ビデオを撮影してYouTubeにアップ

YouTubeの「公開」と「**限定公開**」

明治大学の commons-i は補助的に使用

4月
オンライン教材
作成の
試行錯誤

中国語検定協会
オンライン学習
http://www.chuken.gr.jp/study/lectures.html

「鏡」からZOOMへ

4月14日～　鏡とデジカメでパソコンの画面を自撮り。
例　https://youtu.be/sitJt9EO8UM
パソコン用の外部カメラや外部マイクは品切。

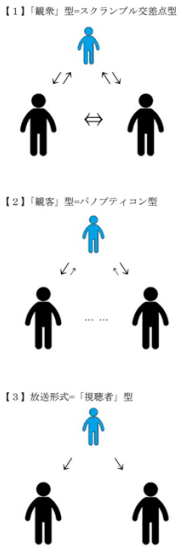
↓

5月17日～　ZOOMで自撮り。
例　https://youtu.be/8aHT7gdbhms

5月　オンライン授業開始･･･

○ 1年生と2年生以上の違い
○受講環境の違い
　パソコンかスマホか
　自宅か寮か(スポーツ推薦、等)
○家族が同じ部屋でオンライン授業を受けるケースも
　例　兄は他大学、妹は明治大学
○家族がオンライン授業をのぞく可能性

【再掲】「感応の動線」とは



参考
http://www.isc.meiji.ac.jp/~katotoru/higashiajia-flow.html

「オンデマンド型」を「放送形式」にしないための工夫
　　アンケートの回答の共有(匿名性の確保)
　　レポート(ドリルの回答、日本語訳)の
　　公開添削

Oh-o! Meiji を活用しての実践例の紹介

将来的には・・・

【案】インターネットを活用した中国語イベント

企画「90秒　中国語ビデオ祭り」

　90秒以内で、中国語による弁論、朗読、歌唱などを自撮りし、その動画を投稿して特設サイト上で「限定公開」する。プロの中国語教員が講評したうえで、母語話者、中国語学習者などもコメントしあう。

張勤先生の本日の
発表資料より→
セファールB2・黄

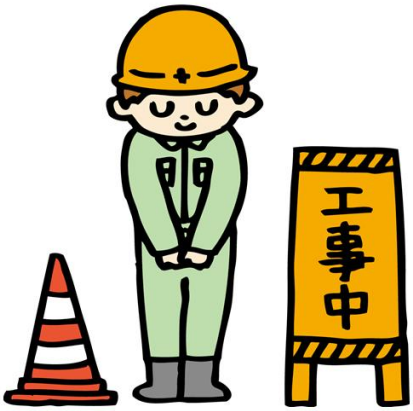
言語使用者	B2	長い会話や講義を理解することができる。また，もし話題がある程度身近な範囲であれば，議論の流れが複雑であっても理解できる。 たいていのテレビのニュースや時事問題の番組も分かる。 標準語の映画なら，大部分は理解できる。	筆者の姿勢や視点が出ている現代の問題についての記事や報告が読める。 現代文学の散文は読める。	流暢に自然に会話をすることができ，母語話者と普通にやり取りができる。 身近なコンテクストの議論に積極的に参加し，自分の意見を説明し，弁明できる。	自分の興味関心のある分野に関連する限り，幅広い話題について，明瞭で詳細な説明をすることができる。 時事問題について，いろいろな可能性の長所，短所を示して自己の見方を説明できる。
		3級		2級	

企画「○○○先生と共演！　中国語スキット投稿ビデオ」

　AとBの2人による短い中国語のスキットを特設サイト上に公開。特設サイト上に、ネイティブ[illegible]う動画を公開。投稿者はBを演じ、特設サイトに投稿。動画の画面の左半分はA、右半分はBで、両者[illegible]なるようにする。

参考　JAA(日本アコーディオン協会)の企画「インターネットわくわく広場」
https://jaa2020acc.wixsite.com/project

ご清聴ありがとうございました。



多クラス共通のオンライン学習とオンライン試験の試みから

理事　村上 公一(早稲田大学)

1. はじめに

早稲田大学では春学期の授業はすべてオンラインで行うこととなった。秋学期は一部科目については大学の教室で行うことが可能になったが，教室定員の 1/4 までしか教室には入れない形になっている。春学期は，オンライン授業への変更にともない，例年より約 1 か月遅れたスタートとなり，授業回数も 15 週から 12 週に減少した。秋学期も基本的にはオンライン授業であるが，授業開始日は変更なく，授業回数も通常通りの 15 週となっている。

早稲田大学では今年度から LMS（Learning Management System）が Waseda Moodle に変更になった。今年度に限り旧 LMS である Course N@vi も使用可能であったが,ほとんどの教員が苦戦しながらも今年度から導入された Waseda Moodle を利用した。

本日は，早稲田大学教育学部 1 年次選択必修外国語科目である「中国語の基礎」の春学期オンライン授業（春学期末試験を含め）の方法について報告するとともに，春学期の振り返りを踏まえて変更した秋学期の授業方針についても報告する。

「中国語の基礎」科目概要は以下の通りである。

- 通年科目。履修者 517 名。15 クラス，1 クラス平均 34.5 人。
- 週 2 回の授業をネイティブ教員とノンネイティブ教員が担当。
- 共通教科書を使用。
- 春学期は 12 週に短縮。秋学期は 15 週授業。
- オンライン授業。

2. 春学期のオンライン授業

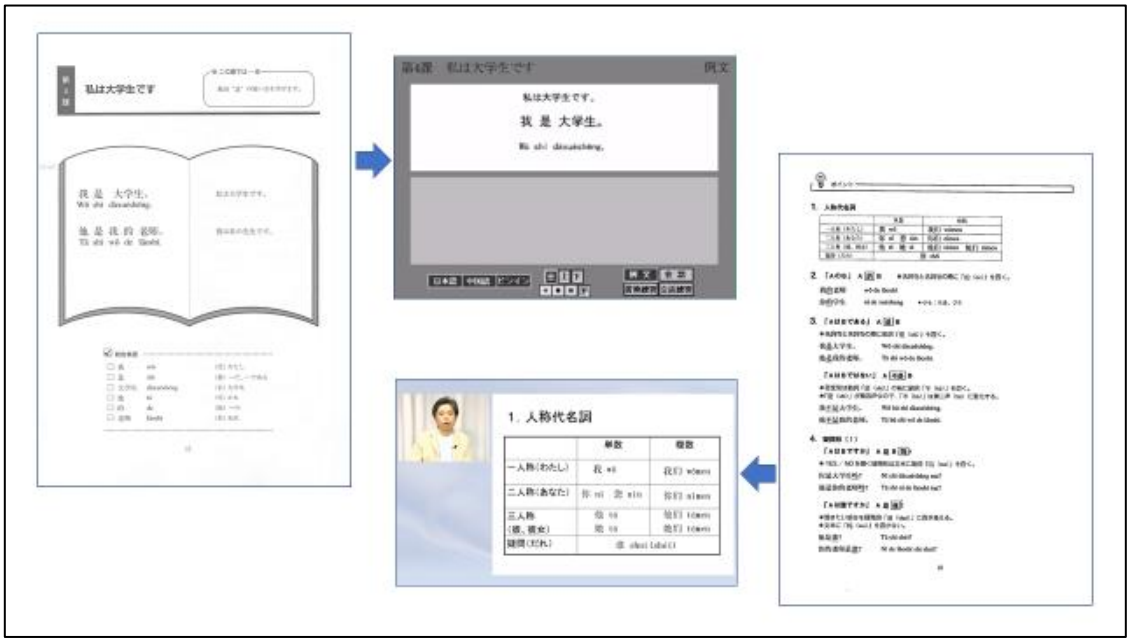
半期 15 週の授業が 12 週（全てオンライン）となったため，12 週の授業を，教科書に沿った授業を 11 週（教科書は全 10 課。通常 3 課分を占めている発音学習を 4 回に増やし，全体を 10 回に再構成），まとめの授業を 1 週とした。

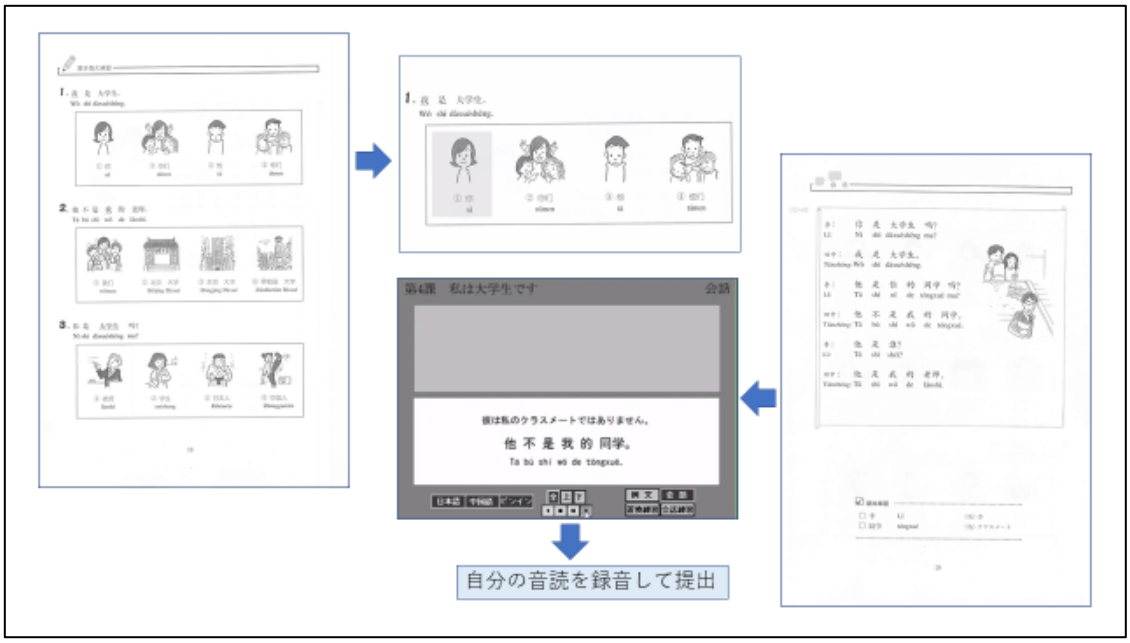
学習内容は以下の通り。すべて Waseda Moodle 上にコンテンツを用意した。

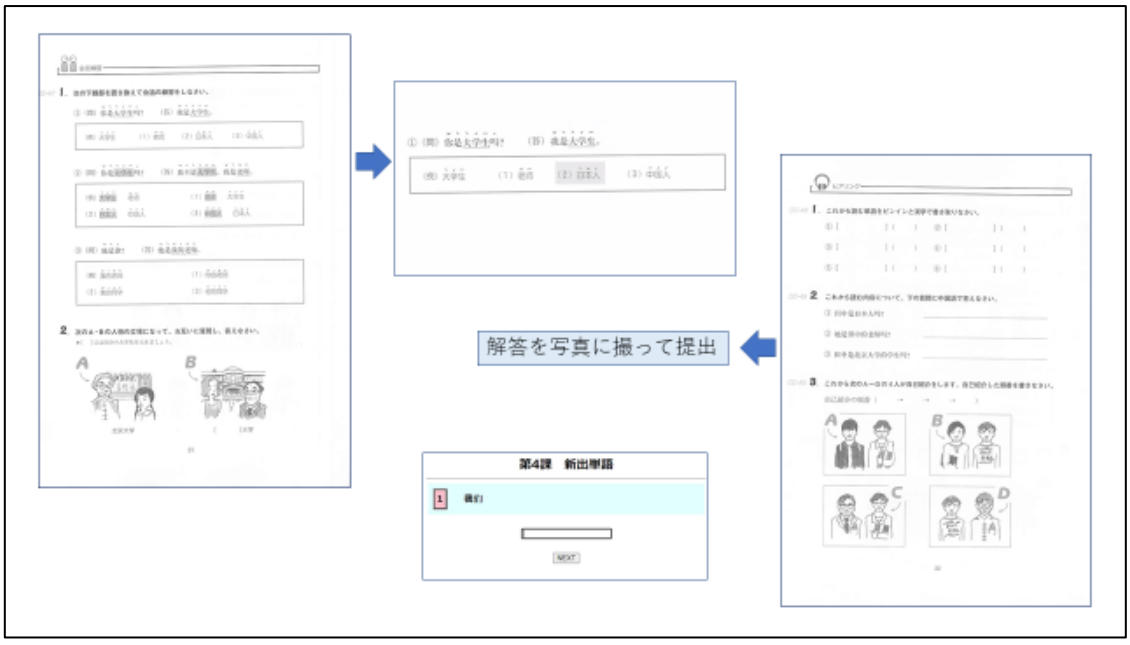
（1）　例文の学習（文字と音声を提示した学習ビデオ）
（2）　ポイントの学習（オンデマンド講義）
（3）　置き換え練習⑴～⑶（文字と音声を提示した学習ビデオ）
（4）　会話，会話（上/下）（文字と音声を提示した学習ビデオ）
（5）　会話練習⑴～⑶（文字と音声を提示した学習ビデオ）
（6）　単語ピンイン小テスト（ピンインを入力すると正誤が判定されるテスト）
（7）　Ondoku Chinese（目白大学の氷野善寛先生のサイトを利用）
（8）　二種類の課題（会話の音読録音/リスニング問題）を提出する。

これらのコンテンツは，毎週月曜 9 時に公開され，学生は各コンテンツの学習を翌週月曜 9 時までに終え，課題を提出する。提出された課題について，各クラスの担当教員が 1 週間以内に確認してフィードバックを行う。毎週の授業はこのように行われた。

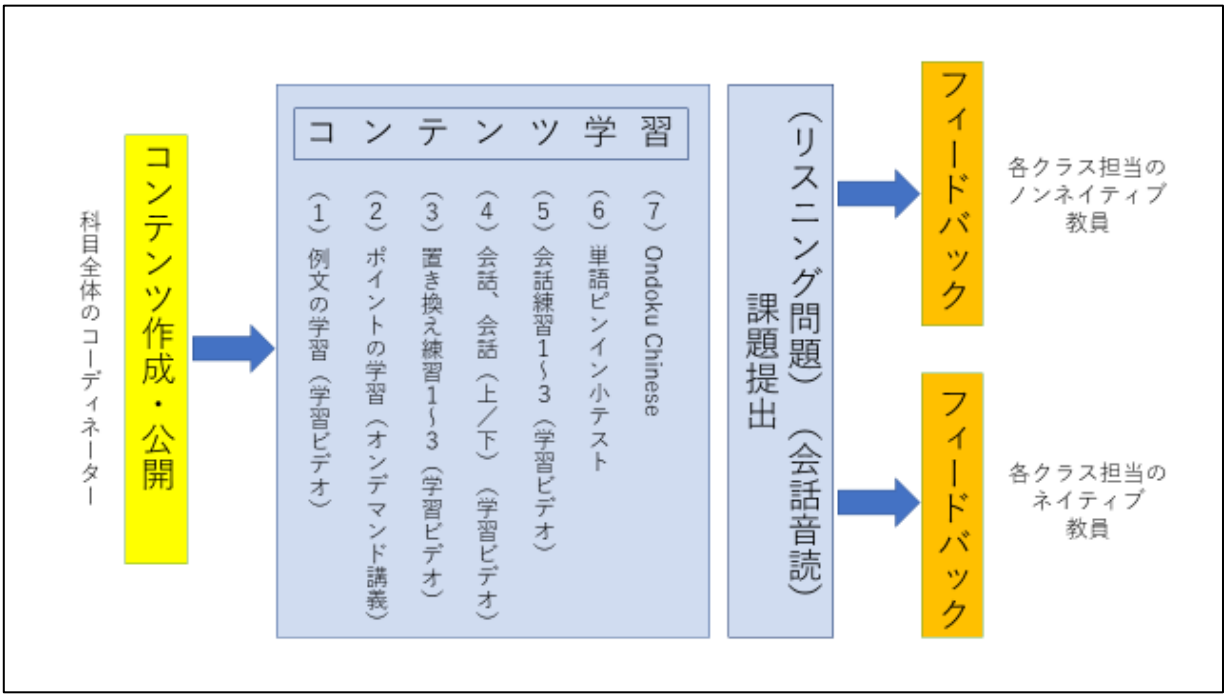
教科書の内容（各課は 6 ページ構成）をそのままオンラインコンテンツ化した。具体的には以下の通り。


第4課　私は大学生です
例文
私は大学生です。
我 是 大学生。
1. 人称代名詞


第4課　私は大学生です
会話
彼は私のクラスメートではありません。
他 不 是 我 的 同学。
自分の音読を録音して提出


解答を写真に撮って提出
第4課　新出単語
NEXT

毎週の学習の流れを図式化すると以下のようになる。科目全体のコーディネーターである専任教員が全クラスのコンテンツを作成し公開する。学生は公開されたコンテンツを学習し，課題を提出する。各クラス担当のノンネイティブ教員，ネイティブ教員それぞれが各学生の課題を確認しフィードバックを行った。各クラス担当の教員はほとんどが非常勤講師であり，週 2 回の授業を 2 名の教員がリレー式に担当していることから，各教員がもう一人の教員と緊密に連携しつつ個別にオンライン授業を実施するのは困難である。そこで，科目全体の運営は専任教員が責任をもって行い，クラス担当の教員はフィードバックのみを行ってもらうという形とした。



3. 春学期末試験

春学期末試験は春学期には行わず，秋学期初めの 3 週間で実施した。春学期は 12 週授業となったが，秋学期は 15 週あるので，秋学期の最初の 3 週を前期末試験にあて，残りの 12 週を，秋学期教科書（10 課構成）の学習＜10 週＞＋秋学期末試験＜2 週＞という形で全体のスケジュールを調整した。

試験の方法・内容は以下の通り。

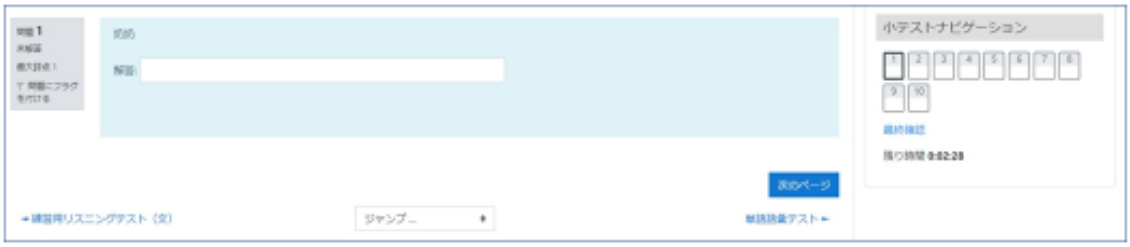
＜ノンネイティブ教員授業回：Waseda Moodle の小テスト機能を利用した試験＞
・5 種類の大問にそれぞれ 100 問程度の問題を作成。大問ごとに 10 問ランダム出題。 ・第 1 週：任意の時間に，本番と全く同じ試験を練習（各大問につき 4 回まで）。 ・第 2 週：授業時間に試験を実施。大問を 1 回または 2 回受験。平均点が最終評価。 ・第 3 週：特定の一日の 8:00-9:00 の時間に再試験を実施（各種トラブルへの対応）。
＜ネイティブ教員授業回：Zoom 等によるリアルタイム口頭試験＞
第 1 週：Zoom 等の接続確認と試験方法の説明，デモンストレーション。 第 2 週・第 3 週：人数を分割して口頭試験を実施（教科書の朗読，質疑応答など）。

事前に大量の問題を用意し，その中から各受験者に別々の問題を選んで出題するという方式は，CBT（Computer Based Test）の基本的な出題形式である。各問題に事前に難易度が設定してあれば CAT（Computerized adaptive test）としての実施も可能である。

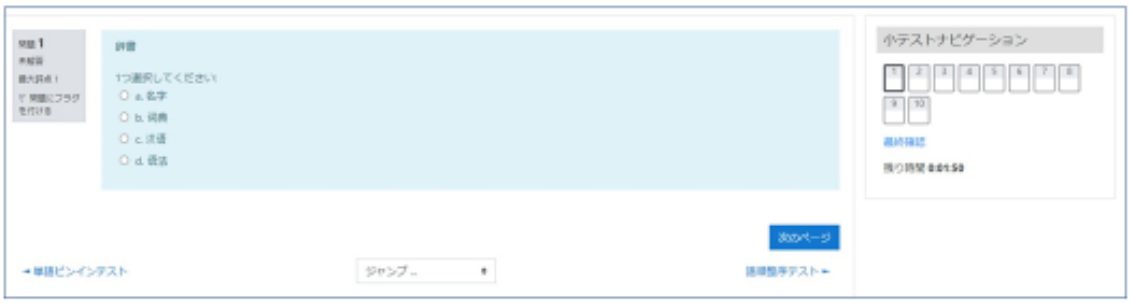
毎回異なる問題が出題されるので，第 1 週に復習や事前予行としての利用もできる。また試験本番でも学生ごとに異なる出題となるので，履修者全員を決まった時間に受験させる必要もない。今回は 15 クラスの通常の授業時間（ノンネイティブ教員担当の授業時間帯）の中で受験させた。

試験の出題画面は以下の通り。

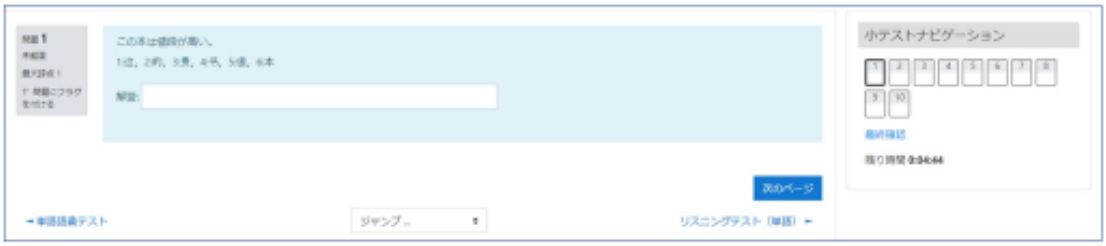
1．中国語の単語のピンインを記す問題（10問、制限時間3分）



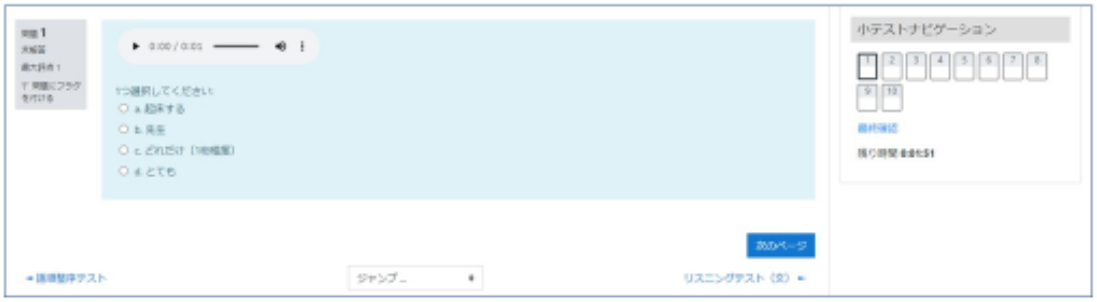
2．日本語訳に相当する中国語の単語を選択する問題（10問、制限時間2分）



3．単語を並べ替えて中国語の文を作る問題（10問、制限時間5分）



4．中国語の単語の発音を聴いて意味を選択する問題（10問、制限時間2分）



5．中国語の文の発音を聴いて意味を選択する問題（10問、制限時間3分）

学生には以下の通知を出したが，大きなトラブルはなかった。

日本人担当教員回の試験を以下の通り行います。

試験日時：10/8（木）10:40～12:10　＜＊注：クラスごとに試験日時を記載＞

試験形式：以下の 5 形式です。

1　中国語の単語のピンインを記す問題（10 問，制限時間 3 分）

2　日本語訳に相当する中国語の単語を選択する問題（10 問，制限時間 2 分）

3　単語を並べ替えて中国語の文を作る問題（10 問，制限時間 5 分）

4　中国語の単語の発音を聴いて意味を選択する問題（10 問，制限時間 2 分）

5　中国語の文の発音を聴いて意味を選択する問題（10 問，制限時間 3 分）

試験方法：以下の方法にしたがって受験してください。

1　日本人担当教員の授業時間 90 分の間に上記 1 から 5 の形式の試験を受験する。
　1 から 5 の受験の順番は自由です。

2　受験は 2 回できます。1 回のみの受験でも構いませんし，2 回受験しても構いません。
　1 回と 2 回の問題の内容は異なります。2 回受験した場合は平均点を試験の成績とします。

3　授業時間終了後に正解，不正解及び得点を確認することができます。

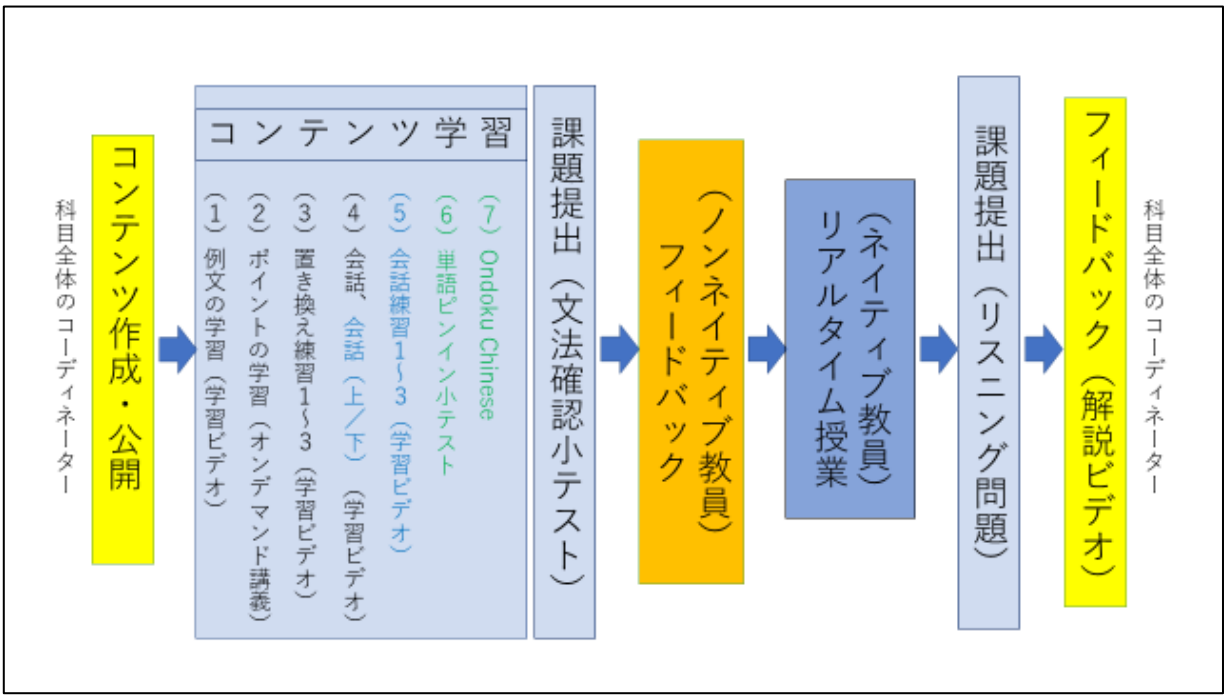
4. 春学期の反省と秋学期の授業方法

春学期は，学生がオンデマンドコンテンツを学習し課題を提出するという方法にしたことから，1）中国語によるコミュニケーションの機会が設けられない，2）発音の矯正が難しいなどの問題が生じた。また，1 週間に 2 コマ分の学習を任意の時間に行うという形であったため，1）学習にメリハリがつきにくい，2）コンテンツ学習，課題提出の成果を実感する場がないなどの問題もあった。

そこで，秋学期はリアルタイム授業も組み合わせた形に改めることにした。秋学期の授業方法の通り。

・ノンネイティブ教員の授業はオンデマンド学習を継続する。
・ネイティブ教員の授業は Zoom 等を利用したリアルタイム授業とする。
・各課の前半をオンデマンド学習とする。
・コンテンツ学習・課題提出と教員からのフィードバックをネイティブ教員の授業までに終える。
・ネイティブ教員は前半の学習を前提としてリルタイム授業を行う。

図式化すると以下のようになる。



5. おわりに

日本中の大学で多くの先生方がオンライン授業に格闘した半年間であり，まだしばらくはそれが続く。今後どこかの段階で通常の授業形式に戻るであろうが，通常の授業に戻ったとしても今回のオンラインでの経験は過去のものとして消え去るのではなく，私たちのこれからの授業に大きな変革をもたらすものとなるだろう。

私自身は 15 年～20 年ほど前に，テレビ会議システムを利用して中国や台湾の教室とつないだ授業の実施，授業の補足としてのオンデマンド教材の作成，中国語の能力を把握するための CAT 方式の中国語 Web テストの開発を行った経験がある。今回もその成果を一部使っているが，当時と比べて，オンライン教育への敷居が格段に低くなったと強く感じている。ISDN 回線に専用の機器をつなげて実施する当時のテレビ会議システムには，事前に回線や機器の準備と一定の取扱い知識が必要だったが，現在は一般的な通信回線に一般的な端末，そこで Zoom など無料のアプリケーションソフトを利用するだけで簡単にリアルタイム遠隔授業を実現することができる。ブレイクアウトルームを通したグループディスカッションも授業に組み込むことができるし，遠隔授業をそのまま収録して即座に公開することも可能になった。LMS の使い勝手も良くなり，教材共有，課題作成なども各 LMS でその手順に若干の違いはあるものの，少し慣れればさほど苦にはならない程度のものになっている。

今回はコロナ禍の中で強制的に行われたオンライン授業であったが，この経験を経て，あらためて教室ですべきこと，教室外ですべきこと，リアルタイムですべきこと，オンデマンドですべきことを整理し，教室授業とオンライン授業を組み合わせたハイブリッド型の授業への本格的な移行を考え始める良い機会かもしれない。

感想・ご意見

今回の「中検フォーラム」に関する感想とご意見について，お寄せいただきました中から一部を紹介します。

ICT が苦手な先生から長年の豊富な経験，高い専門性を有する先生まで，幅広い方のお話，経験，ノウハウをお聞きすることができ，大変に有意義だった。
〖意見〗Zoom 機能・効果を最大限に生かした会議でした。小回りの利く協会ならではの企画をタイムリーに実施してはいかがでしょうか。解説講座も Zoom で可能かと思います。

第一部では，現行の 2 級筆記問題を取り上げて下さったのはありがたく思います。CEFR 基準と照らして中検で不足している分野をどのようにするか，張先生のご提案には，チャットにもあったようにかなり不安が残ります。第二部のケース報告は中国語教育研究会の守備範囲かと思いますが，評価方法を中検に関連付けができれば良いと思いました。

プログラムの内容がタイムリーなものばかりで，大変勉強になりました。一般的な「大学でのオンライン授業」のような実践報告会は，勤務先の大学でも行われていますが，今回は中国語の授業や試験に特化した内容でしたので，今後の授業や試験問題作成の際に直結的に参考になることばかりでした。
当初は，設定時間が若干長いように思ったのですが，報告の内容が充実していたため，あっという間に時間が経ったような気がします。実は，先生方のご発表の裏で，リモート出席者の先生方数名とメールやチャットで感想を言い合っていたのですが，皆さん，かなり良い刺激を受けておられたようです。
〖意見〗今回，直接会場に伺っての参加はかなわなかったのですが，Zoom によるリモート参加が可能であったことで助かりました。今後のフォーラムにつきましても，リモートでの出席もお認いただけると，出席者が増えるのではないかと思います。

誰も未経験の非常事態の中，オンラインという技術でフォーラムを開催できたのはよかったです。特にわたしのように遠方に住んでいる者にとっては今回の方法はよかったです。ただし，やはり直接お会いして交流する価値には及びませんので，今後もオンラインを活用するとしても，直接のミーティングを主流として，遠方で参加が難しいメンバーにはオンラインを併用するという形がよいのではないかと思います。今回は中検の問題作成の基準についての変更点とオンライン授業で利用できるプラットフォームやソフト，HP の情報がとても参考になりました。

中検の今後の変更点や，大学でのオンライン授業についての実践が分かり，大変参考になりました。今回は直接会場に行かなくても，Zoom での参加が可能であったため自宅から参加できて良かったです。
報告が多かったので，報告時間を少なくするか，報告を減らし質疑の時間を多く取っても良かった気がします。
〖意見〗中国語の初級のテキストについて，例えば日本語教育のように共通のものができないか。フォーラムでも意見がありましたが，現在中国語のテキストは様々なものがあり，オンラインで活用できるツールもバラバラに存在しています。初級で必要最低限学ぶ部分については，共通のものが一つでもあれば，それを利用して応用も可能なのではないかと思います。
学習者も昔とは変わってきており，今後の中国語教育がどのような方向を目指していくのか，どのような教学方法が望ましいのか，是非知りたいです。

今学期は，学生もオンライン授業に慣れてきていますので，授業の質に対する学生の目というのがより厳しくなるかと思います。拝聴したご発表は，いずれも授業運営のヒントとなる内容のものばかりでした。今回得た知見をこ

れからの授業運営に活かしていきたいと思います。問題形式変更についても，個人的はとても興味があるので，今後も注視していきたいと思います。

コロナ禍の中で，日本で中国語を教えていらっしゃる先生方と同じ，上海日本人学校でも ICT での授業形態や成績評価で苦労しています。今回のお話を聞かせていただき，先生方ご自身の経験だけではなく，授業で使えるサイト，アプリ，試験問題づくりの注意点など，数多くのことを教えていただき，心から感謝しております。今後自分の授業でも，これらのことを生かして，実践していきたいと思いました。
〖意見〗今回のフォーラムは現在のような状況の中で，中国語教育の変化や，中国語検定試験の今後の動向に関する話は実用性が高く，とても参考になりました。

前期から手探り状態で初めてのオンライン授業に挑み，いまに至ります。今回，いくつかの大学での具体的な授業実践の例を見せていただくことができ，また，オンライン授業に習熟されている先生から少なからぬ情報提供をいただき（とくに，すぐに使える知識や技術を紹介くださったのがありがたかったです），現場の中国語教師としてたいへんに有益なものでした。

個人的に最も興味があったのは氷野先生の内容でした。私も今年度は様々なツールに触れましたが，まだまだ知らない面白そうなアプリやサイトが多く今後に生かしてまいりたいと思いました。
〖意見〗すでに出題内容など，十分に議論されていらっしゃると思いますが，個人的にはもっと中検またはその他中国語の資格・検定に関するテーマが多いと嬉しいです。

特に，出題する際，学生の理解力をしっかり図れるようにいろんな工夫は必要だと改めて思いました。それから，翻訳ツールの精度に関する統計に非常に興味深いです。

今回のフォーラムは，オンラインという形で開催されましたが，予想よりも参加者が多かったという印象を受けました。CEFR にあわせての改革やオンライン授業・試験などについて，発表者からさまざまな成功例や失敗談を聞きながら，やはり教師同士の連携や意識の改革，ICT などの専門知識の学習やサポートする必要があると改めて感じさせられました。なお，今回の発表で，いかに学生たちのカンニング行為などを防ぐかの方法を探りながら，オンライン授業・試験を進められている先生が多かったようです。
教員・教育者側からどうやって教えるか，公平の前提で試験を行うのは勿論重要なことだと思います。
ただし，非常時期だけではなく，特に今後 IT 化が進む中，学生たちが何を，どのように学びたいのか，彼らの関心を絞り，もっと実用的，専門的な言語知識を教えてあげる工夫をするのが教育の根本ではないかと思います。
〖意見〗上述の考えにより，次回のフォーラムでは教える側だけではなく，学ぶ側からの感想・オンライン授業に対する評価などが聞けるよう，双方向，自由に意見交換を行う場を設ければ面白いかと思います。

オンライン授業について他大学の先生方の取り組みを聞くことで，自分のやり方を振り返ることができました。みなさん苦労しているところや考えていることは同じなんだなと少し安心した部分もあります。
〖意見〗Zoom でのオンライン開催を続けていただきたいと思います。

東京にいながら関西の会議に参加できるという面では非常によかったと思います。
日本国内だけでなく海外の参加者を交え，活発な意見交換ができる場であれば良いですね。

中国語教育の最新事情を知ることができ，中検の最新動向を把握できてよかった。リモート試験とオンライン授業は，コロナ影響の対策として非常に参考となりました。
〖意見〗定期的に対面形式，またはZoom形式で開催してほしい。また，可能であれば，定期的に中国語教育の最先端情報の共有や，中国語教育同士間の交流もできれば嬉しいです。

新型コロナウイルス禍をめぐる現下の状況に鑑み，学生たちの学ぶ環境を失わないために，世界中で「オンライン授業」が取り入れられています。先生たちが悪戦苦闘しながら，オンラインを活用して何とか学生たちに学びを届けようとしています。中検フォーラムの際に，明快で解りやすい発表をしていただいた諸先生方は，オンライン授業をより豊かにするため，学習環境の整え方，教え方，「Zoom」「WebEx」「Google hangouts Meet」利用を効率化する方法など，語学授業をオンライン化した場合の留意点を示しつつ，簡潔かつ有益であり，大変参考になりました。中国語運用の最も重要な場面である対面コミュニケーションができることを遠隔授業でも第一に考え，なるべく授業時間内に会話練習や共同作業を行なう授業の形態を模索しております。

コロナ禍の状況に沿ったオンライン講座のお話をたくさん聞かせていただき，大変勉強になりました。アフターコロナもオンラインのノウハウを生かしたいと思います。
〖意見〗パネルディスカッション形式でたくさんの先生の対談を聞きたいと思っています。大学の中国語講義を中心としていますが，できれば一般の中国語学習者を対象とした内容も参考にしたいと思います。共通の中国語試験用システムの構築をとても楽しみにしています。

有意義な時間を過ごせました。先生たちの発表内容はたいへん具体的で分かり易かったのです。大いに参考になりました。今後の授業(リモート・対面授業の両方において)に活かせる内容ばかりでした。
〖意見〗福岡県に在住しており，高校と大学で中国語の授業を担当しておりますが，出張でフォーラムに参加する機会はほぼないので，オンラインで参加できればとても助かります。今後もオンラインでの参加できれば嬉しいです。中国語教育や教授に関する交流会等を開催していただければ嬉しく存じます。また，コロナの関係で福岡県での中検受験はできないため，春の中検に申込みした生徒は結構いましたが，受けられなくなり今年は断念するしかありませんでした。特に高校生たちに対して大変残念なことになりました。今後こういう事態に備えて少人数の団体での個別受験ができれば嬉しく存じます。

今後の中国語検定試験の出題方針がCEFRを考慮したものになるであろう，というお話を伺い，複言語主義の観点から，いっそ「読解力と作文力」「リスニング力とスピーキング力」を測る試験を別々に実施・判定することも一つの方法ではないかと感じました。受験者が，自分の得意分野では上級を目指し，苦手分野に関しては少しレベルを下げて受験することができれば，個人の中国語力をより正確に測れるのではないかと思います。聴覚や視覚に障碍をお持ちの方にとっても，受験しやすくなるのではないでしょうか。また，オンライン授業における試験の実施方法につきましては，私自身，今，まさに試行錯誤の真っ只中におります。毎回，試験問題を作成する際には，「試験実施のためだけの出題になっていないか」「本当に中国語力を正しく測れる問題か」と自問を繰り返しております。ただ，学生の個性が多様化し，大量の設問に素早く反応することが苦手な学生もいるので，タイトな時間制限による方法は少し導入しにくく感じます。カンニングを防ぎきれないオンライン試験では，単に語彙力や文法知識を問うのではなく，調べ学習や練習の成果を評価する試験，例えば，テーマに沿ったプレゼンテーション動画の提出を課す，などの評価方法が適しているのではないかと考えているところです。オンラインでパフォーマンス・テストを実施された先生がいらっしゃいましたら，また，ご教示いただければ幸いです。
〖意見〗機会がありましたら，他言語の検定試験の状況（出題傾向の変遷や今後の課題など）についても，お話を伺ってみたいと思っています。

初めての参加ですが，とても勉強になりました。今年に入ってから，大学教育を取り巻く環境が大きく変わってきました。中国語の授業も例外なく前期はすべてオンライン授業となり，後期は対面授業とオンライン授業のハイブリッド授業となりました。いずれも新しい取り組みで，どのようにすればより良い授業ができるかと日々悩んでいました。そんな状況の中で，今回のフォーラムが開催され，私にとってはまさに“旱天后的及时雨”となり，たいへん関心を持って参加させていただきました。先生方が発表された中国語教育に関する対面授業とオンライン授業の役割分担や試験のあり方などの報告は，たいへん参考になりました。フォーラム後，早速実践を始めました。そして，最も知りたかった他の先生方の中国語オンライン授業の実践例も聞くことができて，非常に勉強になりました。その中のいくつかの取り組みを自分の授業にも取り入れようと考えています。このフォーラムに参加して，今後の授業の改善にたいへん役に立つと思います。
〖意見〗オンライン授業と対面授業のハイブリッド授業は今後も続くだろうと考えています。ハイブリッド授業のあり方について再検討しなければならないと思います。対面とオンラインと，具体的にどのように組み合わせをすればいいか，それぞれやる内容をどう配分すればより効果的なのかなど，こうした課題について他の先生方の実践例をもっと多く聞きたいと思っています。
また中国語検定試験については，新しい出題形式を検討されているようですが，これについての検討も聞きたいと思っています。

氷野先生と加藤先生の発表はとても印象に残りました。氷野先生からオンライン授業用のテクニック，実用なアプリなどを教えていただいて，すぐでも使いたいです。加藤先生からオンライン授業でそのように学生の感応を受け取るかという新しい考え方を教えていただきました。
〖意見〗学生の合格率をあげるための教授法など，各教員間の交流があれば，とても助かります。

これから学生たちが中国語を学ぶことにどう教えていいか新しい挑戦だと思うけど，特にオンラインを重視する今の語学教育はこの会議からいろいろなアイディアと提案を知りとても助かる。これからは中検を受ける学生にその指導をするように努力します。

絞られたテーマでよかったです。テーマに沿った各先生方による様々な視点，切り口でのご講演，ご報告でたいへん参考になりました。
〖意見〗オンラインでの参加（Zoom あるいは別途，生配信：単方向でも）が今後も実施可能であるかご検討いただければ幸いです。

試験結果のお知らせ

「第 99 回・第 100 回試験結果」及び「試験問題に関するご意見・ご指摘」を当協会の見解と併せて紹介します。

第 99 回(2019 年 11 月)

	準４級	４級		３級		２級		準１級（一次）		１級（一次）	
	リスニング 筆記	リスニング	筆記	リスニング	筆記	リスニング	筆記	リスニング	筆記	リスニング	筆記
合格基準点	60	60	60	65 (55)	65 (55)	70 (65)	70 (65)	75 (70)	75 (70)	85	85
平均点	70. 6	64. 8	69. 4	54. 0	61. 5	64. 5	59. 1	62. 7	57. 8	72. 6	66. 1
志願者数	3, 525	3, 836		3, 392		1, 895		469		259	
受験者数	3, 235	3, 387		2, 933		1, 715		407		241	
合格者数	2, 526	1, 953		1, 238		540		70		16	
合格率	78. 1%	57. 7%		42. 2%		31. 5%		17. 2%		6. 6%	

準4級･リスニング 1

⑴　kē　①gē　②kū　❸kē　④gū　　有気音と無気音の区別に少し難があった。

▶ご意見承りました。

4級･リスニング 1

⑺　你吃饺子，还是吃面条？　　“面条”は“面条儿”ではないか。

▶「現代漢語詞典」（第７版）では確かに“儿”がつきますが，なくても許容範囲です。

3級･リスニング 1

⑹　Ａ你想喝咖啡，还是想喝可乐？　Ｂ这两种饮料我都不太想喝。

❶那，你想喝什么啊？　②那，你就喝可乐吧。

正解は①だが，②でも会話は成立するのでは？

⑺　Ａ木下，明天的考试几点开始？　Ｂ明天有考试吗？

①我也不知道明天几点考试。❸你不知道明天有汉语考试吗？

正解は③だが，両者の情報があいまいな場合，①でも成立するのでは？（内容は重複するが）

⑼　Ａ田中，那本小说你看完了吗？　Ｂ这两天写论文太忙了，还没开始看呢。

❶我也想看看，你什么时候能看完啊？　④我和你一样，这两天一定要写完论文。

①でも④でも会話は成立するのでは？（④の場合，両者の言う“这两天”にズレのある可能性はあるが…）

▶皆論理的に問題があります。

3級･筆記 2

⑷“我们每天走（着）上学。”は“我们每天走着去上学。”とすべきではないか。

▶ご意見承りました。

3級･筆記 5

⑴　わたしは何も食べたくない。⑷　わたしは彼女が作った料理を食べたことがありません。

同じ動詞の重複は避けた方がよいのではないか。

▶ご指摘の通りです。

2級･リスニング 1

⑷　A王军，这次考试你不好好儿复习，还会不及格的。B这句话所包含的意思是？

❷“王军上次考试也考得不好。”は“王军上次考试考得不好。”ではないか。

▶A（話し手）は，B（聞き手，王軍さん）の今回の試験が不合格になることを前提として話をしており，また前回の試験も不合格であることが推測されるため，“也”を用いることができます。

⑸　A你今天要是不说，我真不知道田中已经结婚了。B说话人是什么意思？

❶说话人今天才知道田中已婚的消息。④田中今天也没告诉我他已经结婚了。④を排除する理由は？

▶A（話し手）が「きょうになってようやく知ることになった」というところが重要です。Aは「田中さんが自分に（結婚したという事実を）伝えなかったことをとがめている」のではなく，「きょうその事実を知った」ということに重きを置いています。もし田中さんが話さなかったことを責めているならば④の選択肢には“到今天也…”と“到”を加えることが必要です。またAはこの会話の中で，きょう田中さんに出会ったとは言っていませんから，④を排除することができます。

2級･リスニング 2

本文“有一次，她跟丈夫坐火车出门，丈夫在车上睡着了，她因为不认识字，到了地方不知道下车，结果坐过了站。”について，“坐过了站”の合理性は？“火车”の場合は到着をつげるアナウンスが流れるのが普通ではないか。

▶到着を告げるアナウンスがあったかもしれませんが，何らかの事情によりそれを聴き取れなかったと判断します。

⑵“刘小红每天早上6点半出门的原因是什么？”は“刘小红为什么每天早上6点半出门？”ではないか。

“什么”はものでもないし，単純な原因でもない（目的）。

▶もちろん“为什么”を使って質問しても，特に問題はありません。

第100回(2020年6月)

第100回	準4級	4級		3級		2級		準1級（一次）		1級（一次）	
	リスニング 筆記	リスニング	筆記	リスニング	筆記	リスニング	筆記	リスニング	筆記	リスニング	筆記
合格基準点	60	60	60	65	65	70	70	75	75	—	—
平均点	75.8	69.9	67.7	65.7	68.2	69.8	67.0	71.8	71.4	—	—
志願者数	1,002	1,600		1,776		878		281		—	
受験者数	806	1,305		1,444		754		254		—	
合格者数	657	795		673		292		95		—	
合格率	81.5%	60.9%		46.6%		38.7%		37.4%		—	

4級･筆記 5

少し容易すぎる様に感じる。

▶基本文型と，初級レベルで使用頻度が高い常用語を問う設問です。試験結果を見ると，⑴の形容詞述語文で“今天是暖和”のように“是”を付ける，⑵の疑問詞疑問文の文末に“吗”を付ける，⑷の“没”を使う否定文で“没”と“了”を同時に使うなどの日本語母語の学習者が陥りやすい誤りは少なくありません。また，“暖和”“生日”“睡觉”“早饭”“超市”“打工”などの常用語の正答率もさほど高くはありません。総合的に考えると「容易すぎる」とはいえません。